

あるワンダラーの山日記

1961年（昭和36年）から日記が始まり
 1998年（平成10年）には一旦筆を置く
 でも還暦を迎えて再び動き始めています

1992年に写本作業を2週間かけて実施

2008年8月に電子化作業を終える

これは、ある記録マニアの山日記の復刻版である

2008年8月10日 公開

2008年8月20日 再更新

最後のページに、茗溪堂発行の山日記（現在は絶版）の
 （日本の山と三百名山一覧）1ページ分があります

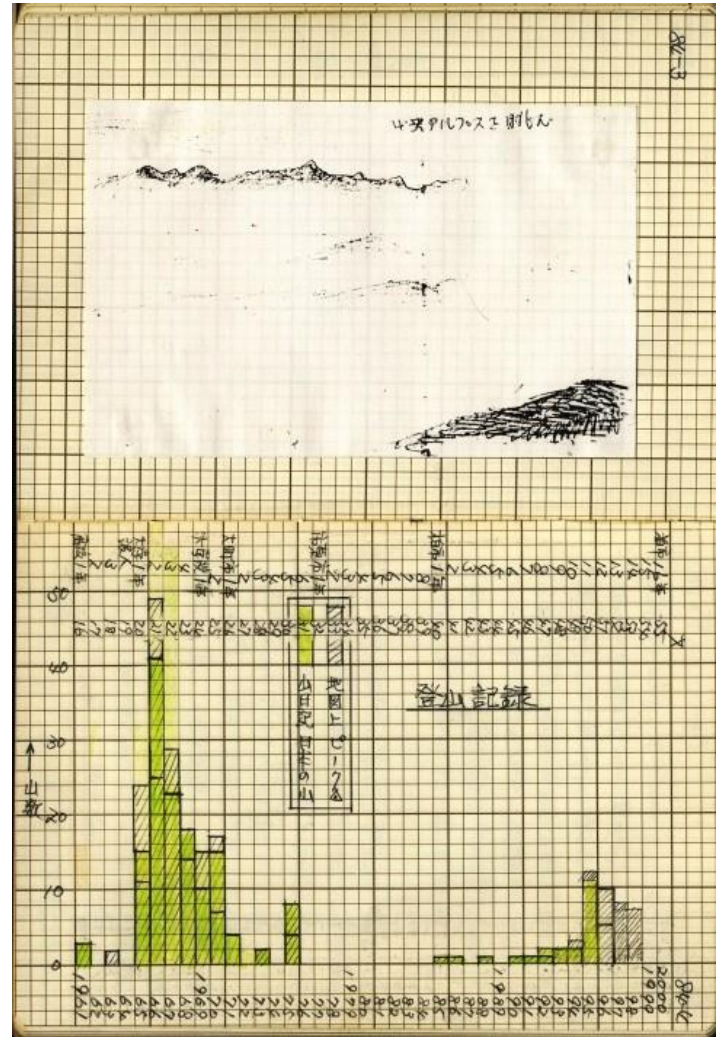
山日記



1985
 日本山岳會

No	内容	西暦	ページ	No	内容	西暦	ページ	No	内容	西暦	ページ
No.1	景信山	1961	1~2	No.19	木曾路南菩薩	1967	47~48	No.37	白馬岳	1973	72
2	八ヶ岳	1961	3~4	20	大室山	1967	49	38	西穂高岳	1973	72
3	丹沢	1963	5~6	21	奥多摩	1967	49~50	39	北アルプス	1975	73~74
4	飯盛山	1965	7~10	22	吾妻野山	1967	50	40	筑波山	1985	75
5	高松山	1965	11~14	23	天城山	1967	51	41	那須高原	1986	75
6	北八ヶ岳	1965	15~18	24	浅間山	1967	52	42	白馬岳	1988	75
7	自神山、岩手山	1965	19~22	25	屋瀬	1967	53~54	43	瑞牆山	1990	76
8	八甲田山	1965	23~24	26	飯豊	1967	55~56	44	筑波山	1991	76
9	南八ヶ岳	1965	25~26	27	大菩薩	1968	57~58	45	富士山	1992	77~93
10	入笠山	1966	27	28	北アルプス北部	1968	59~60	46	磐梯山	1992	102~111
11	御坂山塊	1966	29~30	29	笹ヶ峰	1969	61	47	富士山	1993	112
12	丹沢	1966	31	30	白峰三山	1969	63~64	48	茅ヶ岳	1993	113
13	小金沢車峰	1966	33~34	31	越後三山	1969	65~66	49	安達太良山	1994	114~115
14	丹沢	1966	31	32	鳳凰三山	1970	67~68	50	筑波山	1994	116
15	奥日光	1966	31~32	33	奥秩父	1970	69	51	甲斐駒ヶ岳	1995	
16	北アルプス	1966	35~42	34	針ヶ岳	1971	70	登山記録集計 日本百名山 194~95 山日記 日本名山 100 (イリマニ(ボリビア・アンデス) 6439m)			
17	北アルプス	1966	43~44	35	鹿島槍岳	1971	70				
18	奥秩父	1966	45~46	36	唐松、五稜岳	1971	71				

以下の番号やページ数は、上記内容と合致しています。



1

No.1

- 1961年(昭和36年) 春
- 景信山 (727.1M) (高尾山 600.9^M) 参考
- 1/5000 地図 上野原
- 高校1年 生物部 春の採集会
- 写真2枚 布地アヒル山 学生服奪
- 1992年8月 MEMO

思い出 1) 北園高校には、小岳部はあったが、自信はあつたので、ワザワザ的だ生物部入部は、山登りを楽しむことと、2) 小さい頃、池袋に住む

2

周りは、草ばかり、金持の庭には木々が生い茂り、近くの氷川神社には小山、木々 更に足元には王子の飛鳥山、東武練馬の比石が多く見つかるところ(地名を忘れた)、大泉の石神井公園と、歩いて、自転車で、昆虫採集など、良くやったものである。その頃は自然環境に恵まれていたから、何のためらいもなく入部した。3) 学生服で、10も学生帽をかかっている。確か、山頂近くに、キャンディー売りか居た。喉が乾いていたので買って食べた。その時は、美味かつたが、後で更に喉が乾いたのを思い出した。

岳 山頂が平らである。 峯 山頂が尖っている。

3

No. 2. (日本百名山 No. 64) ①

• 1961年(昭和36年) 夏

② 2741.2 M ③ 2825 M ④ 2899.2 M

• 八ヶ岳 (碓氷岳, 横岳, 赤岳)

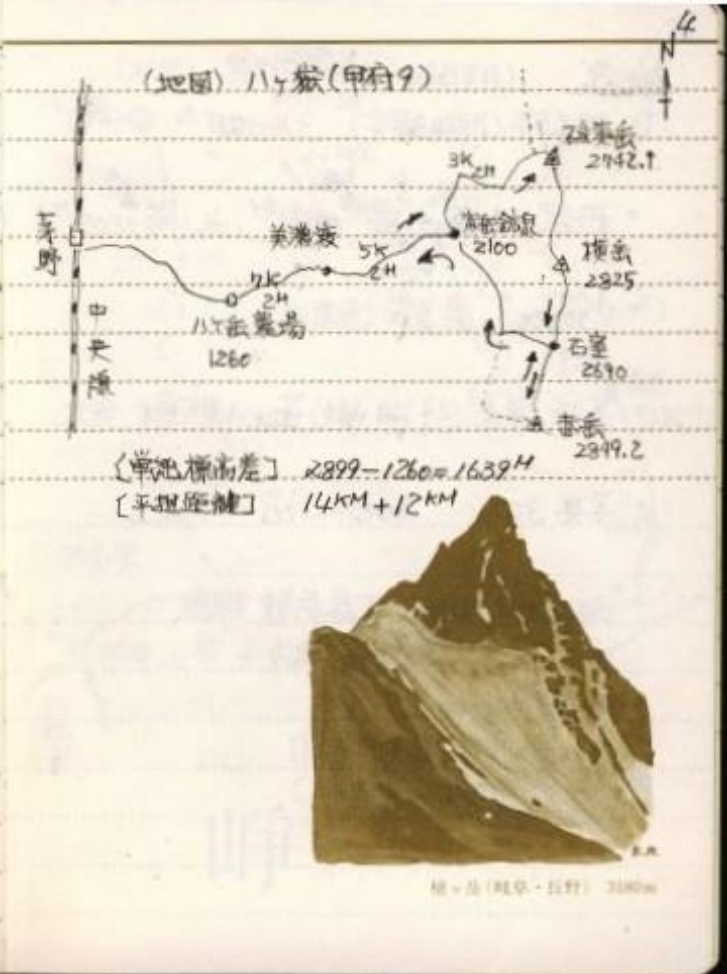
• 1/50000 八ヶ岳(甲府9)

• 高校1年 生物部 夏季採集会

• 写真2枚 布地P.V.C

• 斎藤寛, (08) 斎藤大貴, 中西, 桐原, 石原
(09) 金原
(3年) 近藤, 内田 (2年) 杉山, 小林, 守岡, 山田,
加藤, 金森, 伊東, 村時 (伴) 安西, 嶋, 文島, 秋

• 初の2000M山(3000M弱), 初の20丁
杖の生活



5

No. 3. (日本百名山 No. 71) ②

• 1963年(昭和38年) 3月30日 O→O

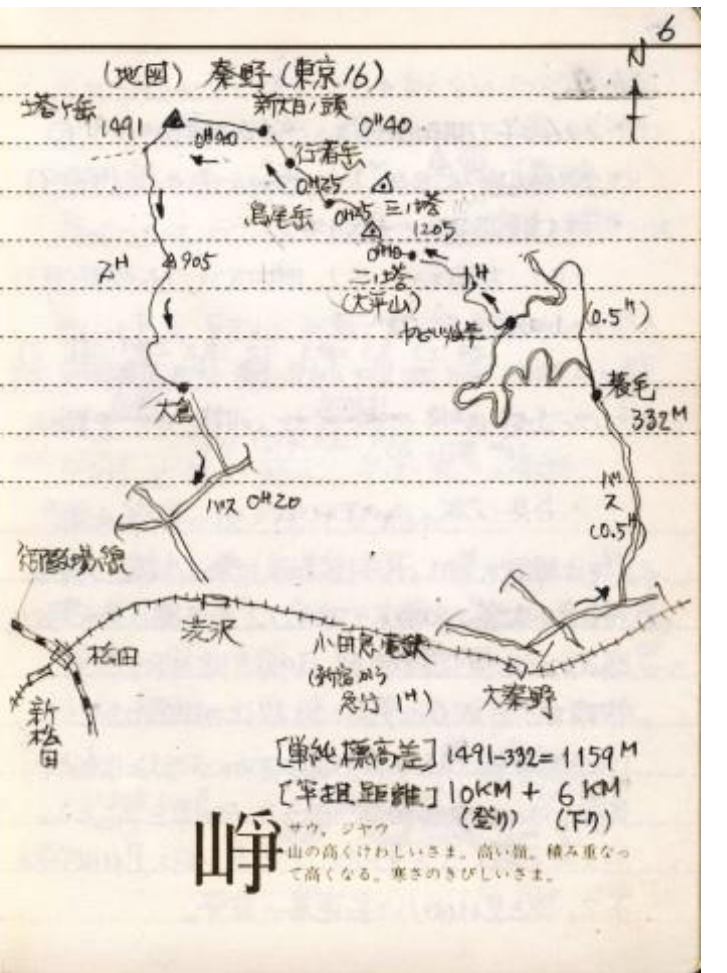
• 丹沢 (塔ヶ岳 1491M, 三塔 1205M)

• 1/50000 秦野(東京16)

• 高校2年末(2年3組) 苗山, 小黒, 真木, 鈴木

• 写真3枚 布地P.V.C

• WUJニキから大学受験勉強
という法で、気さくな友人と登山と
計画|K.A.P.



No.4.

- 1965年(昭和40年) 4/24(土)~25(日) O
- 飯盛山(1653.4M), 1/5000 八ヶ岳(甲府9)
- 新人歓迎W. 大学1年
 - C.L. 松本(工3), S.L. 岡村(芸3), M. 服部(経3)
 - 1~8隊 72人
 - 5隊 清水^伊 林^工 栗田^芸 小菅^工 上島^芸 中田^工 石川^芸 朝倉^工 鈴木^芸
 - 上野 13番線 信越線 小諸 小海線 野辺山
 - 20° 第台 23° (道中津村) 30°
 - 写真 2枚 山のP.V.I.V.M ￥635円

4/24上野駅に集合し、夜行の信越線に乗って小諸に3時着。
 待合室で紅茶を飲み下ろす。小海線に乗って野辺山。
 眠いまま無理に用いて、目の赤さを眺め下り……
 快晴だ!! 万歳!! 今迄に約14位の睡眠をとって
 11K歩いた。疲れは未だ感じない。ホリソンの水入れ、
 体感、いよいよ出発。平らなROADをとことこ。
 肩の荷も軽く上を見れば、青空、前を見れば緑の
 木々、横を見れば八ヶ岳連峰の雪冠。

K.K. 我々が歩く道はとうも良くないのだ。(とろん)
 然し上級生は実に良く歌を知っている。僕は歌詞を
 知らぬので歌えないのだが、それよりも坂になると
 息が切まって、口々に音が出なくなるので歌は状態では
 ないのだ。

それは岩角、平沢山に到着。目の前に名の如くの形を
 1ヶ飯盛山が横たわって居た。PEAKに人の群。
 しかも、あんな狭い所に、あんな多くの人を立てられる
 なあ! と羊は感心、羊は驚きの面舞。
 僕も、彼等の後を追って登るのだ。

前に登っていく奴らが掛け出して登り始めた。僕も
 真似て駆け出す。途中で先輩が“そい、もう一息、
 頑張れ!!”と声援。その成果有りや、やと思
 いで駆け登った。途端に、羊かんを差し出された。



マンナブル+IV峰と日峰(ノバール・ヒツウヤ) 7925mと7937m

自動的の手が動き、羊かんは口の中へ吸い込ま
 れた。あ、あ、ハッハッハッは、いふことできない。
 実に水が飲めたのだ。実現されたのか。

頂上での“フル〜フル〜固大、フル〜フル〜ガッ
 フル〜フル〜新人”は気分が良かった。記念撮影。
 飯盛山を下山して、平沢山で昼食をとる。おきり3。
 直ぐK.K.に付ける。それからスタンプに始まった。
 3年、4年生の芸を見て(2年生は強制的にやせK)
 涙が出る程笑った。今日の成果あり!

下山。登りとは雲泥の差のSPEEDで、F.L.
 河原に到着。解散式。

お茶、テテテと歩く。ホリソを振り、陽に焼けて下
 テテテと小海線の清里に着く。午乳を1本。
 一口で飲みます。中央線に乗り換えて新宿へ
 新宿へと帰宅を急ぐ。神子君と雑談下ろす。

K.K. 普通列車のノロキにはあきれられるばかりだ。

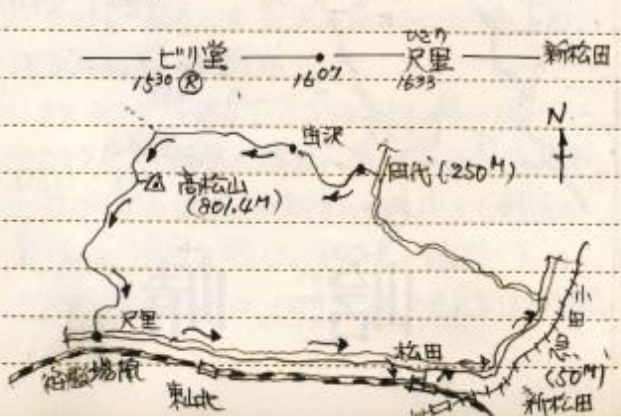
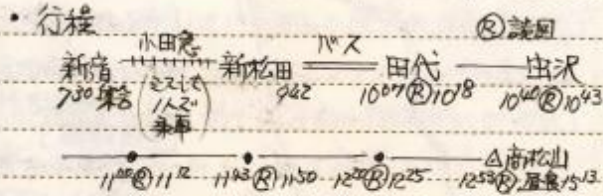
久し振りの山登り。まあ、楽(かった。
 何と云っても、天気が舞台効果の100%を占めた
 ようだ。(1992.8.30 転記再録)



晴 晴 晴
 カン コン 大きい谷。 サウ、ジャウ けむしく高い山。 なかい、ふかい。

No.5.

- 1965年(昭和40年) 5/16(日) ●*
- 高松山 (801.4M), 50000 秦野(東京16)
- 読図Ⅳ 大学1年
 - 1~4隊 4隊に所属
 - 写真 2枚 山AFRICA ￥500円



[単独標高差] 801-250=551M
 [平面距離] 4KM(登り)+3KM(下り)

集合し頃には、あんなの小雨がはらつき、早や興味半減になってしまった。
 磁石と地図を併せての山登りは、未だかつてしたことなかった。やがてともせいせい地図持参位である、いやそんな面倒なものを併せていかなのかの方が多かったかも知れぬ。
 それもそのはず、私は、いつも誰かの後について登っていたから。
 それは兎角、読図とは面倒臭い所もある。

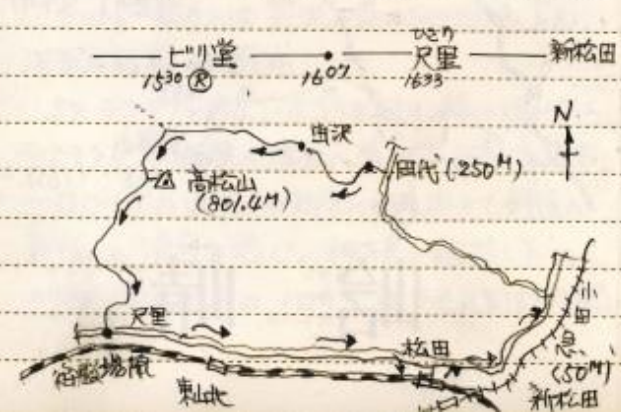
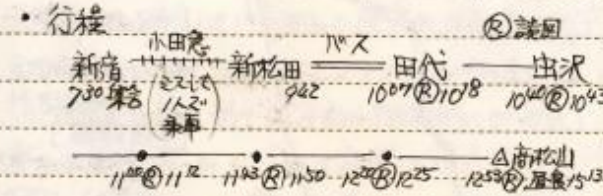
- * 1965年 5/8 気象講習会
- 5/9 合同レニジ
- 5/12 読図Ⅳの説明会
- 5/19~5/25 合宿のためのレニジ



瑞見岳(静岡・長野) 3046.9m

No.5.

- 1965年(昭和40年) 5/16(日) ●*
- 高松山 (801.4M), 50000 秦野(東京16)
- 読図Ⅳ 大学1年
 - 1~4隊 4隊に所属
 - 写真 2枚 山AFRICA ￥500円



[単独標高差] 801-250=551M
 [平面距離] 4KM(登り)+3KM(下り)

集合し頃には、あんなの小雨がはらつき、早や興味半減になってしまった。
 磁石と地図を併せての山登りは、未だかつてしたことなかった。やがてともせいせい地図持参位である、いやそんな面倒なものを併せていかなのかの方が多かったかも知れぬ。
 それもそのはず、私は、いつも誰かの後について登っていたから。
 それは兎角、読図とは面倒臭い所もある。

- * 1965年 5/8 気象講習会
- 5/9 合同レニジ
- 5/12 読図Ⅳの説明会
- 5/19~5/25 合宿のためのレニジ



瑞見岳(静岡・長野) 3046.9m

多少は面白い所もある。前者は、言うまでもなく、そして後者は、自分が、地図で当てた山(尾根)などが、的中していた時(然し、何時も当たらずには、いけないのだから)である。

何につけても云えるのは、少々面倒な事でも苦勞は遂行すれば、習得後の楽しみが、増すことは、明らかである。

FR"人間社会"に於て完全なものは存在し得ないから、進歩の過程において、振り返って見て、現在の状態が、過去のそれよりも優れているのを発見できたら、満足できるだろうし、亦その時点で、更に未来へ伸びる跳躍台となるかも知れない。

昼休みのスタンプは、大変傑作であった。1年生も4年生も皆意気投合して、くつろいだ。

終りの一言、読図を充分できるような

コースであったが、尺里以後の時間を浪費した点は、考えてもらいたいと思う。

(1992, 8.30 転記再録)

別なXもより

尺里に到着。バス停で相当待つ。新松田駅に到着した時、後続の隊が仲々来ない。1~2H 歌を歌って時間をつぶした。実にもくもくといふことした。(勉強家ではない。FR"人生の寿命を縮めてしまったので文句を云っているのだ。) カタン、ゴトと揺られながら、1440位かかって新松田駅に到着する。読図をマスターせす!!

崩

さかみち。上り下りの坂道。山のひくく長くつづきます。砂丘のさま。

No.6

(日本百名山 No.63) 蓼科山③

- 1965年(昭和40年) 5/29(土)~5/11(火)
- 北八ヶ岳 1/50,000 蓼科山(長野12)
 - 茶臼山 2360M, 高栢山 2402M, 横岳 2422.5M
 - 大嶽 2282M, 双子山 2223.8M, 蓼科山 2330.3M
 - 前栢山 2353.6M, () 1872.5M
- 新人合宿 大学1年
 - C.L. 馬形, S.L. 八島, M. 下村, 北村
 - 1~7班 98人
 - 班3 I3 班4 I4 班4 I4 班2 班2
 - 班1 班1 班1 班1 班1 班1
 - 班1 班1 班1 班1 班1 班1
 - 多寡 0枚 ¥635 + 200(合宿費)
- 行程



峭

セウ けわしい。高い。けわしい坂。急坂。まびしい。はげしい。気性が激しい。せっかち。あざやかなさま。

実察のこと、相当バテた。6月2日 腹をこわし
(医者の診断: 下痢は風邪, これは復冷え,
疲労, 食へ過ぎから来た) 1日中寝込んで
しまったことが実証している。

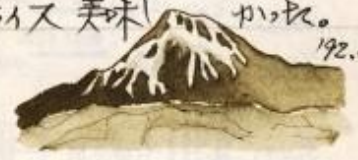
が、かえてこの思いかげない休暇で、
寝不足は解消され6月3日以降他人が
(6月2日 学校にまじめに出席した者) コッ!
やっている時、私だけ、まことに快調になれ

工学部においての準備、買い出しの点に入って
少し触れてみたい。生鮮食品の買い出し等は
別として、共同装備を整理して、生鮮食品以外
の物の買い出しなどは、もっと早い時期にやれば
どうだろうか。というは、その目アスケガール
に無理があったように思われるからである。
遠くから通学している人や、下宿している人にと
巻いて、時間的、身体的に余裕が欲しい。か
一考を。

どうも僕は、あの堅い、直角、そして狭い
列車の椅子(座席)では、安眠できない。
色々寝る方法を考えてみたが、どうも
うまくいかなかった。

その結果、熟睡した時間は、せいぜい
2~3時間だろうか。この睡眠時間か
ま1日目の登山に、相当ひびいたのでは
ないだろうか。 (1992年8月31日 転記)

結構大してできしないうのに、一丁前に
文句だけは云っているなあ。
思い出したか、小諸駅前でお食へた
ラーメンライス 美味しかった。



アモペンダ(イラン) 5604m

192.8.31

No.7 (日本百名山 No.10) 岩木山 ①

- 1965年(昭和40年) 7/18(日)~7/30(金)
- 白神山系, 岩木山 など 津軽方面

“東北訪問”

	鯉ヶ沢 (標高16)	五所川原 (標高12)
深浦 (標高1)	川原平 (標高13)	弘前 (標高4)

- 夏合宿
- 1~①隊
- 水隊(31, 32, 33) 白神, (34) 石, (35) 石
- P.L. 下村, S.F. 北見, M. 尾川, 上野, 飯村
(34) (32) (32) (31) (31) (31) (31)
- 写真 0枚 交通費 食費 etc 円
¥2570 + 2820

• 行程

7/18(日) 上野 19:25 急行水戸線
7/19(月) 秋田 7:25 奥羽本線 東能代 9:00 津軽線 10:25 盛岡黒山崎
10:30 (鶴ヶ沢駅)
7/20(火) 白神山系 白神岳 白神岳 ← 向白神岳
7/21(水) 大峯岳 崩山 十二湖

- 7/22(木) 十二湖 岩崎海岸 中山峠 深淵
- 7/23(金) 深淵 深淵 約8km 洞ヶ平 (川原の平)
- 7/24(土) 停滞
- 7/25(日) 水戸線 岩木山頂
- 7/26(月) 奥沢 (10:25 20:20)
- 7/27(火) 停滞
- 7/28(水) 板柳 五所川原 黒石 湯湯
- 7/29(木) ?
- 7/30(金) 酸ヶ湯 舞妓

白 嶺
ハク、ヒヤク
山に草木の茂
っているさま。
サ
ザ
山がくすれる。

No. 9. (日輪百名山 No. 64.) 2回目

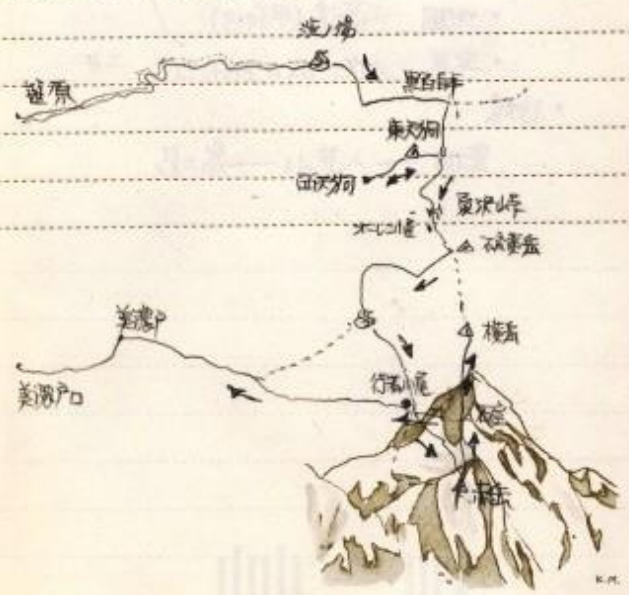
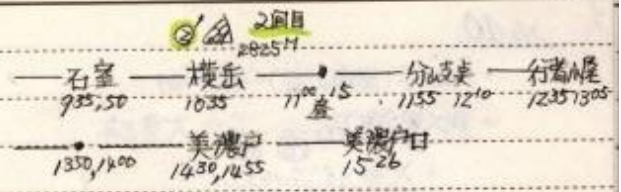
- 1965年(昭和40年) 10/12~15
- 10月の南ハヤ岳 P.W. 大学1年
 - (登3) (登2) (登2) (登1) (登1)
 - 北村, 須藤, 田中, 三浦E, 鈴木
 - 写真 6枚 山のアルバム 羊410
 - 地図 ハヤ岳(甲府9), 蓼科山(長野12)

• 行程

10/13 炭ノ湯 尾根 黒百合平
 812 900, 15 927, 30 10, 33, 52 1102 1210
 2645.8M 2335M
 東天狗 ← 西天狗 → 東天狗
 1255, 1313 1335 1340 1350 1400 1408
 2600M 2392M
 根子岳 夏沢峠 下ノ小屋
 1433 1438 1450 1510 2100履

10/14 碓氷峠 川西池 28日 2742.1M
 455履 640 700, 15 732, 47 805 830
 川西池 357履
 木岳鈴鹿 行者小屋
 900 履 1050 1055 9 1050 小屋 1050

10/15 上ノ小屋 蓼科山 28日 2899.2M
 500履 735 805, 10 800 898 900



ハン・ナンブリ(中国・ソ連) 6995m

No. 10.

- 1966年(昭和41年) 4/28~29
- 新入道 P.W. 大学2年
 - 入笠山 1955.1M
 - 地図 高遠(甲府13)
 - 写真 2枚 山のアルバム

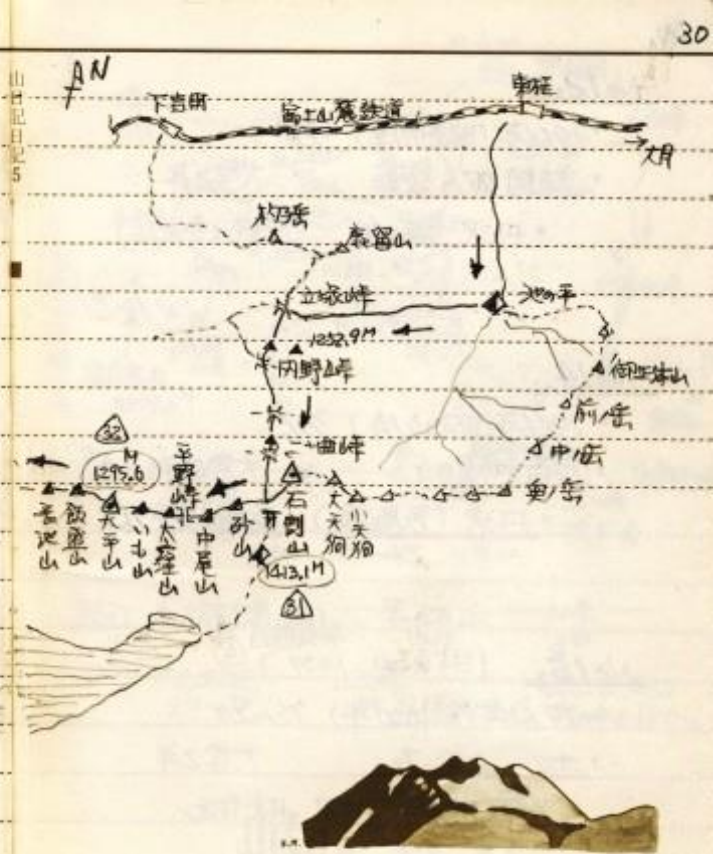
• 行程

青柳 — 入笠山 — 富士見

岫 二つの山、二山並立。
 峽 ヤウ、アウ ふもと。山の形、山林が美しい。

No. 11.

- 1966年(昭和41年) 5/3~5
- 11-7-1 養成合宿 大学2年
- 御坂山塊
- 地図 静岡(甲府3), 山中湖(甲府4)
- 八景, 飯坂, 田中, 三浦, 上原, 大V, 杉山
- 金本, () ¥570



トムラウシ山(北海道) 2141m

No. 12.

- 1966年(昭和41年) 5/8
- 詠園 IV の 復察 大学2年
- 丹沢 経ヶ岳 秦野(東京16)

No. 14.

- 1966年(昭和41年) 7/16
- 歩荷訓練 大学2年
- 丹沢(表尾根) 秦野(東京16)

No. 15.

- 1966年(昭和41年) 7/21~24
- サマーキャンブ 大学2年
- 奥日光 地図 日光付近
- 写真 2枚 山の風景
- 白根山 △ 2577.6M



峯

シエン 極めて奥山かいさま。山のかたち。山の起伏あるさまより、次第階級あるさま。

8/2 0, 12°, 無風〜その凡 須砂渡〜大助小屋

歩いたのは2ヒコチ。我が進む前方は、全宇宙と
 配しているのやうに、腰と据えている北風が連綿と目され。
 僕は、あの遠くから眺めると山の色が一番好きである。
 今日、その色と充分に楽しむことができたのは大良かった。
 秋の澄みきいた空の色、あゝ何と素晴らしい。眺めながら
 僕は、そのような景色を茫然と眺めていた時、ふと自分の
 全てを忘れてはいて、ただ自分が大自然に溶け込んで
 いるかのような錯覚をしているような気が湧き出ている気が
 した。そのような気持になるのは滅多にないから。
 今日以降も、この「生」の認識と持つのを機会
 と多く味わいたい。これは、この気持と心を
 支える。それがとうとう「人」という方向に直ぐに出る
 だろうが、それは後日記に譲ることにする。
 それにしても今日は暑かった。初日はとうとう「ガ」手
 である。午後の自由時間、それを相殺して「カ」はじに
 思われる。肉片も十分(?)食へた。まあまあ1日お水。

8/3 4:30 ● ホッポツ 8:00 ● 7P-7P-

今日は、全てを私にまかせられた。結構気がつかう
 人がなめと思つた。17P-の小おさんに14:00迄に
 着けは良いと云われ、最初、少し早いハコスに
 飛はしてしまつた。その為か、隊員に、ちよつと不満が
 出たようだ。雨も降り、おきるしと云うと涼しく
 歩けたようだ。9ヒコチ 結構。

8/4 〇 後 ● + 常念小屋〜東大井〜大天井流

加藤の先頭。今日のコースは、実に楽しいが為か
 ひたひたのラムードであった。しかし合宿中に一度は
 二人の日もあててもよからう。いつもいつも人間は、
 緊張をたしてはくれない。

峠

ツ、ツ
 はやま、しげやま、草木の繁茂している山。
 はげやま、はだか山。

8/5 〇 大天井流〜西岳小屋〜猪ヶ岳↔橋のオ
 木下が先頭。1年女子2人バテる。私はL氏の
 命令で菅野の後について、様子とみるように歩いた。女性の
 バテ状態と推計することは、実にむづかしいからと思つた。
 私にも1年後には、Leaders 3人37P。今後の
 ようなことも気をつけて勉強せねばならぬと思う。
 橋までのコースは、時間的に厳しかったが、木の
 制限には、辛酸をなめた。11人で朝から、大湯まで
 2.5時半。それもカンカン照り。ちよつと無理では、
 なかったらうか。小屋に予備の水を買ってあかひきであった。
 それにしても、実に1日が乾いた。4度程、吐き気ともな
 おした程だ。胃液が口の中にあるような錯覚をたじた。
 このようなことを経験して感じるとは、人間とは
 実に弱いのだから、ということである。と云うことと云う
 人間にも一つ弱みと云うところがあると、その人の実力は、
 半分に下になり、役立たなくなってしまうことだ。
 大湯探しに苦労した。途中、たけなぐ食水
 雪のうまきは、一生忘れたいだろう。

橋からの展望の素晴らしさ。夏合宿の成果の半分は
 あつたろう。抱負に近づいた。3つの点は満された。

夏合宿に期待すること。
 ワンカケ之年目の私は、あの貴族的な北風の足
 登高野大隊に属することになった。そこで次のような事
 をしてやる。一つには、あの美しくかつ厳しく、おれんじ
 態をつけ、かつ安さは自然の樹木に育つ北風の足に
 全身を投ずることによって、自分の対して無難な(健康な)本
 謙遜さ(理性に従う態度)、そして情熱的な探求心
 (主観性および行動力、常に全体的に對して疑問ともし
 自問出来る範囲で、その疑問を解くように努力する)
 等を求めること。
 この事は、
 北風の足とい
 場、時間、それ
 数人のメンバー
 の要素が7の系



猪岳(長野・八ヶ岳連峰) 2825m

53 54

(15) (16)
燃岳 至山

No.25. (日本百名山 No.28, No.29)

- 1967年(昭和42年) 9/2(金)~9/5(月)
- 尾瀬 DM (単独行) 大学3年
- (地図) 燃岳(日光11), 藤原(日光15)
- 号英 0 枚
- 羊 2,140円
- ツェルト, ランタン (1冊中&刊借)
- IR-201, 食器 (1冊中&刊借)

モンチ・ローザ(スイス・アルプス) 4634m

55 56

飯豊山 (17)

No.26. (日本百名山 No.19)

- 1967年(昭和42年) 8/5~8/7
- 复合宿 朝日~飯豊 大学3年
- 1~7隊 (7隊沖湯) 6隊あさひ(8/1)
- 4. 松川, 5. 山縣, M大蔵, 岩井, 溝田, 鈴木
- 鈴木, 佐藤, 佐藤, 鈴木, 鈴木, 中村
- 竹内, 堤岡, 竹中 (不参加) 沢原, 木田

• 地図	飯豊山 (5)
	大目岳 (6) 燕達 (2)
	野下 (8)

• 号英 5 枚 1/200 新潟

• 行程

8/9	上野	2290	飯豊山	547.65	新井	738	小国	1100	1024	小国	1100	1370
-----	----	------	-----	--------	----	-----	----	------	------	----	------	------

8/30 上野 → 飯豊山花

8/31 飯豊山花 → 藤原 → 門内岳

8/1 北股岳 → 梅花皮岳 → 御西岳 → 飯豊山

8/2 梅澤 → 大目岳

8/3 三国岳 → 地蔵岳 → 川入

8/4 一木 → 山部 → 野沢

山

山と山とが分岐するところ。道路の岐れたところ。
まちがう、くわいがう、そらす、それる、まざる。

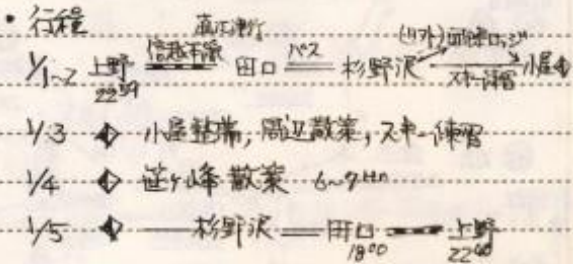
8/5 水沼

8/6 沼沢沼 (集結) 8/7 上野

前半の朝日連峰は都合に利不参加途中に飯豊連峰に参加。

No. 29. (日本百名山 No. 33) 妙高山 20 ?年秋登山

- 1969年(昭和44年) 1/1~5
- 冬期小屋偵察 大宮4年
- 妙高山笹ヶ峰 (地図) 妙高山(南側15)
- 近藤, 三浦, 鈴木



- 1/3 ◀ 小屋整備, 周辺散策, 又中一練習
- 1/4 ◀ 笹ヶ峰散策 6~9時
- 1/5 ◀ 杉野沢 → 田口 → 上野



フッカーヒュートル(オーストリア) 3507m

No. 30. (日本百名山 No. 80, No. 81) 北岳 周山

- 1969年(昭和44年) 8/23 ~ 8/26
- 白峰三山(南岳から北岳) 大宮院1年
- 諸星, 福井, 三浦, 加中, 鈴木
- 地図 1/5万 市野原(14) 大河原(15) 新沢(11) 1/20万 甲府
- 写真 170枚, カラー7枚

残念から 日程不明。記録も未だ見当たらず。
 ワケル0Bの加中氏と同行しなせ。
 途中でバツタリ 偶然 会友と登山の事。
 23年前の記憶は 仲々 又升かえらな。
 → 記録見かる (92.9.6 16日 山日記) 3.4.6
 最初から同行 (甲府B(1832中3年達) 加中同行)

日本百名山 P392より
 白峰三山という呼称は「甲斐国志」に南北へ
 連なりて三峰山」といふ記事から出た。……
 大井川, 三峰川, 早川の三つが大きな川で、その水源は



山 タウン、タウン、コウ、ゴウ
 小山が大山と並んで、大山よりも高いもの。
 高山の上にある小山の、大山と並んでそれよりも高いもの。

この歴史が 堀川から発しているのがある。

No. 31. (日本百名山 No. 25) 魚沼郡小出 28

- 1969年(昭和44年) 9/20~23
- 越後三山 縦走 大宮院1年
- L 福井, 2L 諸星, 小林, 松川, 三浦, 鈴木
- 大宮院 1~2年 xバー
- 地図 [十日町(借組2)] 八海山(日光14)

行程

上越線 高田行 11x 15.7 1236.0M
 9/20(土) 上野 20.0 25.12 小出 408 700 枝柳峠 820 850
 ① 21(日) 明神峠 9x 爪城 9x 爪城 9.15 小倉山 1125 1370M 小倉山下 1140 (昼) 13.00 百重池 1375 1470 1540M 酒田小屋 15.15 1885M

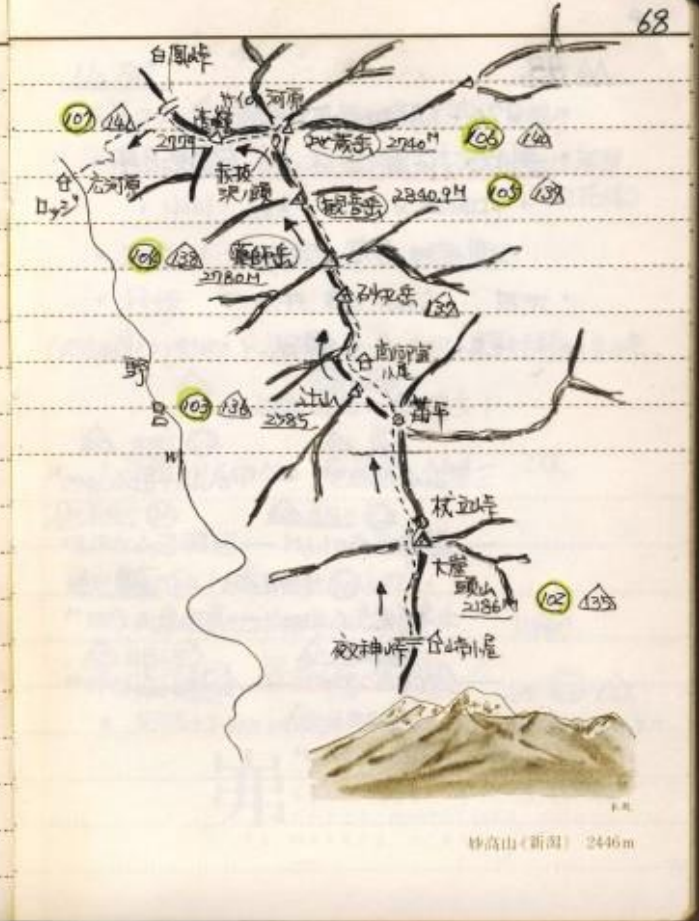
② 9/22(月) 1/分岐 ← 湯ノ谷 天狗平
 7.00 8.40 8.50 9.05 2002.0M 1100M
 権斎下手前 10.05 10.15 12.30 (昼) 13.40 2030.2M 1402 1420 1990M
 御月山 14.35 14.45 16.15 16.25 17.00 (x道中)

③ 9/23(火) 3.00 4.20 5.35 5.45 6.10 6.20 7.05 7.35 8.20 1175M
 1.00 1.50 11.20 11.40 11.55 15.00 15.20



No. 32. (日本百名山 No. 79) 鳳凰山 24

- 1970年(昭和45年) 8/5~
- 鳳凰三山 大宮院2年
- 諸星, 三浦, 松川, 鈴木
- 地図 [葦崎(甲府10)] 藤沢(甲府11)
- 写真 18枚



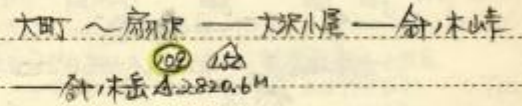
No 33.

- 1970年(昭和45年) 6/10 ~ 10/10
- 奥秩父縦走 大学院2年
- 和甲研 X 2人
- 三浦, 吉田, 安藤, 高村, (), 鈴木
- 地図 会峰山, 三峰, 丹波
- 行程 No 18 と類似 (No 18 (1) 追加記入)



No 34

- 1971年(昭和46年) 7/10 日帰り
- 北PN702 針木雪渓 入社1年目 (大町在住)
- 中川, 鈴木
- 地図 大町(高山1), 立山(高山5)
- 行程



- 写真 アルム 跡榮男 No 1 3枚

No 35. (日本百名山 No 47)

- 1971年(昭和46年) 8/22 日帰り
- 北PN702 鹿島槍 単独行
- 尾沼居の石ノノリ 大町乗 - 冷地小屋 - 鹿島槍 (2899.7M)

峯

ツツ, フキ 山腹をめぐるおもしろい道。山の彎曲したところ。山のけわしいさま。山のおくみかいさま。特立するさま。おこるさま。

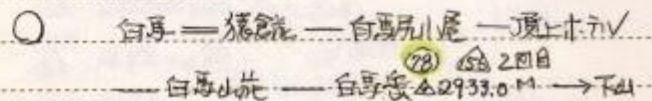
No 36 (日本百名山 No 46)

- 1971年(昭和46年) 10/10 ~ 11
- 北PN702 唐松, 五竜 単独行 入社1年目
- 地図 白馬岳(高山4), 大町(高山1)
- 行程



No 37. (日本百名山 No 45)

- 1973年(昭和48年) 8/11
- 北PN702 白馬雪渓 入社3年目 (大町在住)
- 美差子, 跡榮男 結婚12年
- 地図 白馬岳(高山4), 写真 家康 No 1 アルム
- 行程



No 38.

- 1973年(昭和48年) 8/10
- 北PN702 西穂高岳
- 下家, 下家良の友, 鈴木
- 大町 上高地(車中)
- 西穂高岳 2908.6M



シェルフホルン(スイス) 4078m

84-5

80
79
78
77
76
75
74
73
72
71
70
69
68
67
66
65
64
63
62
61
60
59
58
57
56

2025
225
225
225
225
2020
119
119
117
115
115
115
112
111
101
99
97
97
96
95
94
93
92
91
90
89
88
87
86
85
84
83
82
81
80
79
78
77
76
75
74
73
72
71
70
69
68
67
66
65
64
63
62
61
60
59
58
57
56

(前の頁よりつづき)

85

大部汗をぬいた。もうシャツはビショビショだ。
汗顔がきつくな水のぬい。息がゆるしできた。
足がきつむ。暗闇の中に、白いものが急に現われ、
よく見ると、何と英国民の慰霊碑だった。
一人の歩みでいると、やけに気持ち悪い。
この時だけは、通り過ぎる車の味方があり、
仲間が、つづきになると思えば、よい。

よくよく太郎坊に着いた。既に2140に近づいた。
歩み始めの約3時間経ていた。元の駐車場が
あった。近くにみやげ屋があった。そこには
ハンチがある。おみやげ屋の中に入り、
せんを買い、ハンチを使い、また訪ねてみた。
流石原から歩いてきたことと多少自慢げに話し
たら、主人から東京からずうーと歩いて富山と
まわって行く人が、最近居たことと聞かされた。
馬鹿といふのは、おれが居たことと

86

妙に感心してしまう。自分が、情けなく、世の中
には、あとあと変わった人達が居るわねと
改めると思い知らされた。

駐車場の奥の、1300mの標高にあり下ら
喧騒、うるさい。我家に電話を掛け、
お互いの無事を確認した後、一人のハンチ
のハンチを50のハンチ、12時間眠りの床にたす。

午前3時に目覚めた。前日の疲れも多少
はとれた。御飯を飯を、味噌汁を作り、
梅干を巻いた海苔巻を、ほうはした。
いはは登ると！ 歩き始めの。深夜から
登って既に下山して3人に逢った。元気ななあ
菜の足若者だ。いいなあ、若いという事は、

ハナハナとつづき、火山の加しと登る。
暗黒の世界に、あつきの差してきた。振り返ると、
太陽の姿とあらわしてきた。それは、御
来光と人は云う。確かに周りの雲が、燈の色

87

に染まり、何とも云えない色合、御光のさし
いるという表現がピッタリ。太陽と輝き、
輝きになる。判るよう気持がよい。

自然は素晴らしい。何の理屈も居らない。
たかへ、跳ぬたかへ、圧倒されるたかへ。

いはおの、何千歩何万歩の歩きながら
ほんの僅かに動きだ。悠然と何万年も
何億年も同じ繰り返すには、あるけれども
ようへと、太陽は昇る。御来光だ。

周りの雲海が、舞台を盛り上げ、つづき
必死になって、シャワーをきる。暗いけれど
うまき、つづき、つづき。

目指す富山、黒い富山、お前は
何を(つづき)と云わんばかりに、静かに泰然と
構えて立ちまわつて居る富山。

お前の前にある。おれは、つづき、つづき、
彼だ。自分だけ富山、おれは、つづき、
つづき、つづき、つづき。

道標なのか。電柱のような木が立っている。
その柱は、背後の太陽の陽をあびているが、
奥に美しい色とはなっている。さくさく削られ
たのか面白い凹凸だ。表示は消えている。
象牙色に見える。石のような柱。

既に太陽は昇り赤茶けた富士山。まだ遠い。
けれども振り返ると結構登ったのだ。
太郎坊は遠く遠くに見える。

私の後を追いかけてくる。元気な人だ。
みみり近づいてくる。あといつまでか遠い
つらね。何だ！外人にはな。話し
掛けをみえ。彼も答えてくれる。"Very
Tuff Man!"と云うからな。うま話をする。
すると相手は、日本語を片言話せるはな。
"お互いに頑張ろう"というふうな意味のこと。
日本語と英語のチャンポンで喋り下ら別れ。

急登。苦し。シヤツの急登。足の砂利道
で滑る。前へ進まぬ。丁度冬山道の初セル
に近う。サツの重さの肩に食い込める。
喉が乾く。乾燥しているから、水を含んでも
直ぐにカウカウになる。喉が痛い。ツバが
出る。こんなに苦く喉が乾いたのは。
槍ヶ岳登山以来だ。

我々二人だ。もう戻りた。何故登るのだ。
二人にづらおもいとして登るのだ。

お前は馬鹿だ。

この暑い天下のこの暑い思いをするのだ。

お前は馬鹿だ。

もうやめな。

こらえて来よ。諦めな。けいこも良く考えて
みよ。心臓麻痺になりそうでも何ともし
前に進んていよ。自分の元気を。夕夕。

心臓の強さ。神様に感謝しな。47歳に
なてこや、二人で急登を頑張っている。

自分の健康に感謝しな。生きているのだ。
幸せなのだ。自分で自分を苦しめているのだ。
その認識をせよたのみに登っているのか。
と云。苦しみのある人。健康と幸せなのだ。

このように自分を慰め勇氣をつけて前へ上へ
進んた。尾を上らぬ。情をなと云。二人
はすてはな。でも47歳。もう50歳に近う。
こんなもの。

昼食もと。喘息がから登りつた。ふや
か目の山小屋に辿りつく。50米登るの
何故こんなに時局かかると云う。

水も既に御殿場駅を降りてから。3リットル使
残りも僅かだ。水を300円を買った。
冷たい。美味しい。今迄19kgもの重さの
を背負ってきたのだ。考えてみれば、
皮製の重い登山靴、アタツサツは、今迄

お逢いの人々の中に、ついでに見掛け知らぬ人
が。ついで最悪状態を想定して、いろ
んな山道具をつた。サツの中と重くしてしま
いたのだ。荷物と預けよう。小屋の主人も
快く置かしてく。

こら。荷物は。満タンの水と。カウとレン
だけだ。しかし相変わらず登りはきつ。
考えてみれば、今迄の山行では。上りもあるが。
途中の平理な道、又は下りも直にあった。
この富士山は。た。ひくから上るだけなのだ。
だからしと云うのだ。

下ってくる人達は、他の山と違って"こらうさ
頑張る下さ"と必ず声を掛けしてくる。
自分達もこの苦しみと味あう。克服してきたら
である。山頂近くになると。最後の喘ぎ。
苦し。急ぐ木は。何の為に今こらで
登っているのだらうと自問しな。

そうか。娘の受験が苦痛している。
 確か山頂には、浅間神社がある。
 そうだ!! 合格祈願のお札をもらおう。
 こう考えていたら、自然と涙がこぼれて
 しまった。破裂しそうな心臓がまた
 別のところを急ぐ鼓動(始)した。
 人間には、二つの心臓があるのか。

やと山頂に着いた。3776米。

やった! ありがとう!

思えばお札の気持が湧いてきた。
 元気でいることの幸やを改め噛みしめた。
 浅間神社で学業のお祈りを二人分買った。
 山頂から柏市の家族へ電話をかけた。
 既に14時を過ぎていた。上の娘が、
 富士山頂から電話がかかってくることを知って
 驚いた。

(92.9.12再録)

いよいよ下りだ。たか" > 走って下った。
 1時間半で麓の太郎坊へ駆けつけた。

富士山は偉大だ!
 やはり、日本一の山だ!
 立派だ!

日本百名山 (正式登山) *印 抜萃文有

No		No	
1) 10	岩木山 *	17) 56	常念岳
2) 11	八甲田山 *	18) 57	笠ヶ岳
3) 19	飯豊山 *	19) 63	蓼科山
4) 24	那須岳 *	20) 64	八ヶ岳 *
5) 25	魚沼駒岳	21) 67	甲斐駒岳
6) 28	燧岳	22) 68	金峰山
7) 29	至仏山	23) 69	瑞牆山
8) 33	妙高山	24) 70	大菩薩岳 *
9) 37	奥白根山	25) 71	丹沢山
10) 43	浅間山	26) 72	富士山 * ¹⁹⁹² / ₁₉₉₃
11) 44	筑波山 * ¹⁹⁹⁴	27) 73	无城山
12) 45	白馬岳 *	28) 79	鳳凰山 *
13) 46	五竜岳	29) 80	北岳 *
14) 47	鹿島槍岳 *	30) 81	間ノ岳
15) 54	槍ヶ岳 *	31) 82	磐梯山 1992
16) 55	穂高岳 *	32) 21	安達太良山 1994

(途中迄、スキー、観光)

No		No	
33) 77	甲斐駒岳 1995	17) 18	蔵王山
34) 78	仙丈岳 1995	2) 21	安達太良山 ^{94登山}
35) 35	高尾山 1995	3) 22	磐梯山 ^{92.11.7登山}
36) 66	雲取山 1995	4) 30	谷川岳
37) 65	両神山 1996	5) 49	立山
38) 74	木曾駒ヶ岳 1996	6) 59	栗駒岳
39) 83	悪沢岳 1996	7) 61	美ヶ原
40) 84	未石岳 1996	8) 62	霧ヶ峰
41) 32	南場山 1996	9) 41	草津白根山
42) 60	御嶽山 1999	10)	
43) 52	黒岳 1997	11)	
44) 53	鷲ヶ岳 ⁵ 1997	12)	
45) 20	吾妻山 1997	13)	
46) 23	会津駒ヶ岳 1997	14)	
47) 14	早池峰 1998	15)	
48) 17	朝日岳 1998	16)	

49 76 恵那山 1997

50

51

52

53

54

55

198.9.18.

山日記に今迄の山行記録と纏めた作業
一応終了す。8/29よりスタート。約2weeks
かかった。

1/5下地田の裏の記録, 1十, ワカレ訂正書,
1あり, 部員証の記録, 写真のアルバム等と
参考資料として使う。

(1393山)

この山日記巻末にある1600m以上の山
100以上を登山するに。一つの目標として
決めた。1971年のJEPALの登山者協会
今年富士山は、¹⁰⁶番目と決まっていた。

85年度版の山日記は、更に1600m以下を
名山といふものもワカレに載せてあり。その
合計は、¹¹⁶番目と決切りの登山に決めた。

この間、同じ山を3回も登っている別もあり

△ヒール踏破は171番目と決まっていた。

山日記の記録と今現在振り返り
みる。今迄の山行は、と55山といふと余裕も
なく、予備日の停滞日にも、日記、記録も
ずいぶん残っている。登山、登山、登山。

歩き、下るときに果敢と決意、
合意と決意、決意と決意、決意と決意。

今迄の記憶、鮮明に残る。この情景の
想い出は、山行と。それは逆に、全記憶
が無く、おぼろげな足と疲労と、もう3回と
歩くと、何となく、おぼろげな山行とある。

3回も同じ山に登る場合、季節や、その時の
精神状態、同年の状況、X-1等
との違いが、受けの印象は、違っている
のである。この時の印象を、おぼろげな
X-1、残る山日記、思い出の山日記、
おぼろげな山日記。

山日記は、おぼろげな。おぼろげな山行と
おぼろげな山行と、何れも記録に残り、おぼろげな
山日記、おぼろげな山日記、おぼろげな山日記。

視覚(色、形)、聴覚(木の葉の音、
ささやき音、話し声、風、鳥、虫、
鳥、動物達のいろいろな音、沢の水の音等)
嗅覚(木立、草花、岩、土、空気などの匂い)
触覚(岩、氷、水、加減、土、石、
硬さ、軟らかさ)等。

最大限に使って、おぼろげな山日記
生(は)の山日記を思い出してある。

山日記の巻頭言をおぼろげな山日記。
"..... 2も一寸と、おぼろげな山日記
おぼろげな山日記、おぼろげな山日記、
おぼろげな山日記、おぼろげな山日記。"
- 370 -

1982.10.3~4, K

深田久弥著 日本百名山の中

小生が登山し、感動した山々を抜き出し、かつその名文の抜萃を転記した。

改めて深田の文章を読み直し、転記すると、感受性は多少より、文学的素養、歴史にも造詣が深いゆえに感心するばかりである。このような名文を少しも替けたらなあと、思う次第である。

この山日記のページ数は100頁であり、日本百名山について書くとはい何か因縁ありや。

これに関連して『百名山100』川口邦雄著 (講談社現代新書 739) という小書もある。それより、鹿島槍について右頁に示す。

鹿島槍十岳

“ふい山はふい彫刻のようくそのまわりを一周せよ”と名言を吐いた人はいないが、この言葉こそ鹿島槍十岳の心に響きよむものだ。それはほといつに姿のふい山である。二つゴボッとたれ盛り上がったふい山にはまともな山、と云って富士山形のような山は何とも単調だ。

ところがこの山は、とゆつみても、さし地肌にはまともな感心されるのである。山体の姿、線は、水気味のない緊張感があり、また誰の目にもハンスの正中線がヒョリときまこみみえる。たぐひに角度を変えて眺めると、この尾根がみえなくなると、次の山がみえはじめ、ついに山の形が相対的に変わっていく。と云く巨大なモザイクのようになっていくような芝居をやってくれるのである。

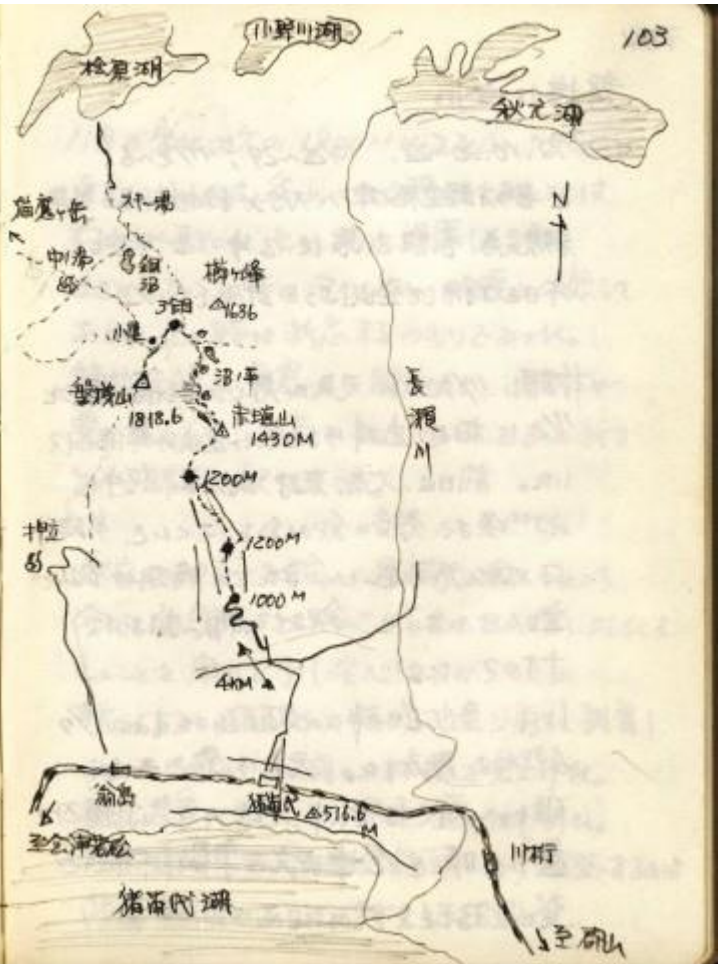
この文章の表現能力及び句読点のつけ方などを、深田の文章と比較すると雲泥の差を感じざるを得ないと思うのは、私にだけでしょうか? (注) -15, -16 10-21 参照のこと。 192.10.10 記

No45

(日本百名山 No22) 磐梯山 (107) 1600m 172 ヒロフ

- 1992年(平成4年) 11/7(土)
- 磐梯山 単独行
- 地図 磐梯山
- 行程

白根
 喜多方市 しろがね産 6:30 起床(定期出張中)
 喜多方 7:26 → 会津若松 7:55 8:30 → 猪苗代 8:59
 猪苗代駅 9:27 (1150M) → ロッソ前(登山口) 9:10 Δ700M
 1) 外上部 10:00~10:05 Δ1000M 赤壇スキーコースA 迷わずみ (12:29 12:35分)
 赤壇山 巻水ヒコ3 (表示1台目) 11:10~11:15 Δ1200M
 11:30 沼平通過 3合目天狗岩 M 12:09 12:20 (登) Δ480
 12:36 3合目清水小屋通過 磐梯山 (上) 3合目 13:12 13:15 Δ1399.5 M
 猪苗代駅 14:55 (下) 14:45 → 猪苗代駅 15:00 16:05 → 郡山 → 上野 19:10 自宅着



水鳥が飛び交った。やはり、ヒフヒフ(2
 いる自分を忘れた。思った。
 磐梯山の北壁が、どおりだっている。眺め
 見ると、赤子前に読んだ山の表現以上
 にすばらしい。表側の磐梯山の表情とは、
 全く同じ山容かと疑いたくなるような差が
 ある。裏磐梯側の斜面に、煙が立っている。
 まさか約100年前(1888年から104年前)
 の噴火を10はせる姿と今も残っている。誰
 一人逢わぬ。この山を歩くと、より無意味
 を感じる。先程、後々、北壁も霧か一部分
 をひき、まわりを白く、覆いかささす強調
 までになる。この山は、
 下で、さか自天狗岩に着いた。樹木峰
 東壁も寒々しく男らしい形をしている。

おにぎり2つと10分ほど。暖かい味噌汁を
 飲み、休息をとった。裏磐梯の沼、湖が、少し
 姿をあらわした。近くにそびえ立つ北壁のすそと
 下におりつく斜面は、殆んど緑色の見られず、
 これはこの時期の雪と氷の割合が多く、多分この
 土質の植物を受けつけず成分が高くなるの
 かと判断された。何の恐れもなく感(さき)を
 得た。今自分も踏ける近く、噴火口
 がある。20分をさかして、近づく
 頂上を歩くと、霧が少し晴れ
 山頂の眺めが、少し白い雪の見える
 山頂の清水山尾に着くと、既に出入口は、(ハ)と
 外の雨戸をうらつた。着くも、登山者
 もいない。最後の登山は、残雪と踏み跡の
 登山。やっと頂上についた。前からの判(ハ)の
 三角地帯の(ハ)は、大い声の万歳と
 叫んだ。これは今西郷司さん(ハ)に

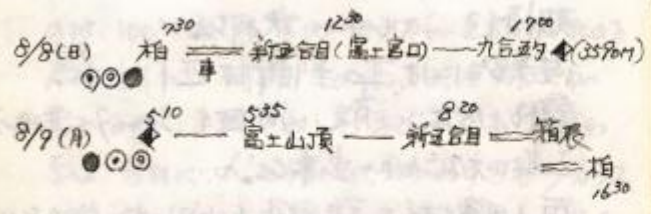
結果として、誰一人いない山頂。
 何の(ハ)も、(ハ)は、100m位下木に、カラスと
 思われた。何故この高(ハ)カラス
 来(ハ)た。それや、合(ハ)一人も虫
 今(ハ)人(ハ)何(ハ)か(ハ)カラス
 に出(ハ)た(ハ)と思(ハ)え、俗界(ハ)近
 にある(ハ)示(ハ)る(ハ)改(ハ)思(ハ)ら
 した。一人(ハ)記念撮影(ハ)して、F(ハ)
 準備(ハ)始(ハ)め。
 ル(ハ)と(ハ)する(ハ)。押(ハ)込(ハ)翁(ハ)島(ハ)ル(ハ)は、
 一番(ハ)最短(ハ)。夏(ハ)の(ハ)う(ハ)た(ハ)う(ハ)た(ハ)態(ハ)と(ハ)あ(ハ)り
 可能(ハ)性(ハ)あり(ハ)。消(ハ)去(ハ)。次(ハ)に(ハ)中(ハ)湯(ハ)ル(ハ)
 温泉(ハ)に(ハ)来(ハ)入(ハ)れる(ハ)か(ハ)更(ハ)に(ハ)裏(ハ)磐(ハ)梯(ハ)に
 抜(ハ)け(ハ)る(ハ)。俗(ハ)界(ハ)観(ハ)光(ハ)地(ハ)帯(ハ)を(ハ)通(ハ)り
 高(ハ)い(ハ)バ(ハ)ス(ハ)代(ハ)を(ハ)抜(ハ)く(ハ)は(ハ)カ(ハ)ら(ハ)し(ハ)と(ハ)思(ハ)い(ハ)消(ハ)去(ハ)。

結局、登(ハ)り(ハ)き(ハ)道(ハ)を(ハ)再(ハ)度(ハ)通(ハ)り(ハ)。ひ(ハ)と(ハ)と(ハ)い(ハ)た(ハ)り
 霧(ハ)の(ハ)晴(ハ)れ(ハ)。下(ハ)界(ハ)を(ハ)眺(ハ)め(ハ)る(ハ)に(ハ)思(ハ)い(ハ)と
 期待(ハ)は(ハ)2(ハ)に(ハ)決(ハ)め(ハ)た(ハ)。
 結果(ハ)的(ハ)には(ハ)この(ハ)判(ハ)断(ハ)は(ハ)正(ハ)し(ハ)か(ハ)ら(ハ)な(ハ)い(ハ)。
 霧(ハ)も(ハ)か(ハ)り(ハ)消(ハ)え(ハ)。何(ハ)れ(ハ)も(ハ)汗(ハ)の(ハ)汗(ハ)と
 と(ハ)わ(ハ)る(ハ)こと(ハ)も(ハ)あ(ハ)ら(ハ)な(ハ)い(ハ)。
 雨(ハ)も(ハ)降(ハ)り(ハ)。強(ハ)い(ハ)風(ハ)も(ハ)吹(ハ)き(ハ)ま(ハ)る(ハ)。さ(ハ)ら(ハ)に(ハ)
 寒(ハ)い(ハ)。結果(ハ)的(ハ)には(ハ)天(ハ)気(ハ)は(ハ)ま(ハ)あ(ハ)ま(ハ)あ
 思(ハ)い(ハ)ま(ハ)る(ハ)。
 頂(ハ)上(ハ)から(ハ)一(ハ)気(ハ)に(ハ)下(ハ)り(ハ)。ひ(ハ)と(ハ)と(ハ)い(ハ)た(ハ)り(ハ)も(ハ)あ(ハ)ら(ハ)な(ハ)い(ハ)。
 対(ハ)一(ハ)場(ハ)前(ハ)口(ハ)に(ハ)シ(ハ)ま(ハ)る(ハ)。
 タ(ハ)ク(ハ)一(ハ)と(ハ)電(ハ)話(ハ)を(ハ)呼(ハ)び(ハ)か(ハ)と(ハ)多(ハ)少(ハ)迷(ハ)っ(ハ)た(ハ)り(ハ)。
 山(ハ)に(ハ)戻(ハ)り(ハ)て(ハ)歩(ハ)く(ハ)道(ハ)は(ハ)約(ハ)4(ハ)km
 歩(ハ)く(ハ)は(ハ)な(ハ)い(ハ)。山(ハ)に(ハ)お(ハ)り(ハ)と(ハ)い(ハ)ふ(ハ)は(ハ)足(ハ)の
 大(ハ)き(ハ)な(ハ)マ(ハ)を(ハ)つ(ハ)く(ハ)。帰(ハ)り(ハ)道(ハ)を(ハ)い(ハ)る(ハ)は(ハ)
 大(ハ)変(ハ)つ(ハ)ら(ハ)い(ハ)思(ハ)い(ハ)ま(ハ)る(ハ)。さ(ハ)ら(ハ)も(ハ)い(ハ)る(ハ)は(ハ)
 楽(ハ)しい(ハ)体(ハ)験(ハ)は(ハ)さ(ハ)ら(ハ)に(ハ)打(ハ)ち(ハ)消(ハ)す(ハ)る(ハ)。

No46.

173 ヒロ

- 1993年(平成5年) 8/8~9
- 富士山 2度目の登山 娘 18.15同行



去年の富士山登山は、実高3000M登り。苦行の御殿場ルートであつたので。

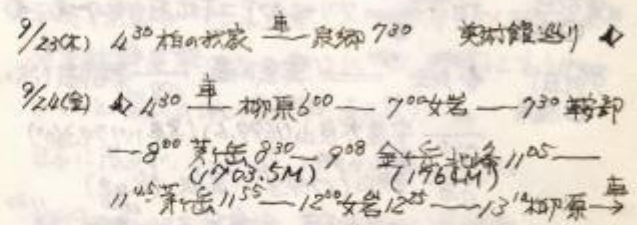
今回 2度目は、実高1200M登りの最短コース(富士宮口)を娘と二人と登った。

天気は、残念下り。霧、霧雨と去年の好天とは、逆であつたが、趣の異なる登山で娘二人は良い想出となつてあろう。

No47

174 ヒロ

- 1993年(平成5年) 9/23~24
- 日本百名山の著者 深田久弥氏 最後の山 茅ヶ岳、金岳 登山 上原君と二人登山

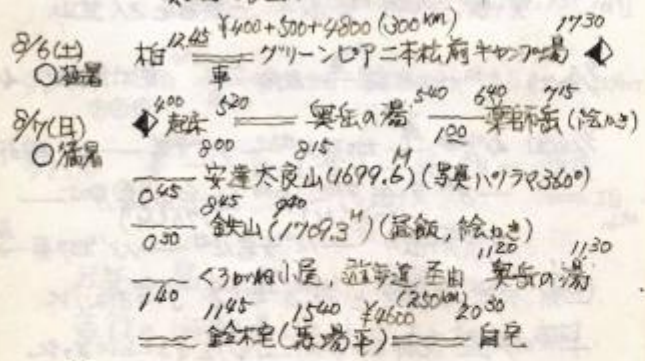


上原、天竺、三浦と私の4人で5年振りに。上原の別荘 泉郷にバスにクルマを置くことにした。折角 11ヶ岳へ行くなり 権現に登つと、針風をきてた。あんなの雨も 9/23 一日中 ぶつぶつ 中止せざるを得ない。上原から 茅ヶ岳、金岳へ 日帰り登山という提案にのり。深田氏の登山中 息をきりながら最後に登った山を登ることにした。結局途中で誰一人 会わない 静かな山であった。山頂で2人で 休憩し 持参した 水彩絵具と ティーを飲んだ。1700米の山であつた。眺望は素晴らしい。

No48

(日箱山 No21) 108 ヒロ (1600Mup) 175~176 ヒロ

- 1994年(平成6年) 8月6日~7日
- 安達太良山~鉄山 単独行



去年の冷夏とは雲泥の差。今夏の猛暑はひどい。8月の梅雨も長く、7月からの長夏日が続く。各地で40℃ 近くになり、高崎市は水不足が深刻。北海道も8月上旬の35前後と、観測史上初の温度。平成不景気も、ビール業界、スナック業界、アイスcream業界 清涼飲料業界などを中心に 1℃ upするとどうにかいくつと景気がいい話になる。日本に限らず、ヨーロッパ、アメリカも暑いらしい。

涼風を求め、今夏は、3度目富士山連続登山をやめて東北の安達太良山を登ることにした。天気心配は勿論 ない。晴天であるに拘わらず。奥岳の湯・あつたの高原スナックと 540に29+1100の既に来た。薬師岳まで誰一人 会わず。鐘と音の熊に会うのはとて不安なところ。2km以内の安達太良山頂につく。やはり 縦線の涼風と景色は、スナックの涼とは別格である。薬師岳と鉄山をスナックを止めた。(水彩画) 帰路は 硫黄の臭いの沢をくぐり、途中 馬場平の兄宅に立ち寄り、美味いビールをいただいた。194.8.8記。

116

この山日記をみてくれた人々の記録

- '92.9.11 向山園智 市原市一杯飲み屋(飯沼山麓宮大衆)
- '92.9.14 高橋保 徳武夜須買物の中で
- '92.10.18 ワケル河期の仲間 横浜中華街 均昌園で (上野大塚, 日渡, 天竺, 三浦地)

No49 1994.10.23(日)
筑波山 (3回目) 1977ヒョウ

8:30 8:30 10:20 10:40
 土浦 土浦 筑波駅 筑波神社
 13:00 14:00 15:10 15:25
 筑波山(男体山) 女体山 2ツツ丘
 16:35 17:00 19:00
 筑波駅 土浦 土浦

久しぶりの秋晴れ。3回目の登山。
 極力歩くことにした。1回目はまだ
 関東鉄道に乗ったが今回はバスに寄る。
 実質4hr30歩いた。絵も画いた。
 丁度現存。今後は49年、49回目の
 山行であった。心地よ痛覚。2200記。

楽しい登山をするために

登山のために



ビワ・パディーレ (イタリア・スイス) 3308m

No50 (50歳記念登山)

- 1995年(平成7年)8月11(金)~13(日)
- 南アルプス 甲斐駒ヶ岳, 仙丈岳
- 単独行, 写真 27枚 101コマ & 1コマ
- 日本百名山 No.97 & No.98 42番目 43番目
 山日記ヒョウ 113+6=119 ヒョウ
 登山ヒョウ 177+6=183 ヒョウ

● 行程

8/11(金) 相模原 6:50 20.4km 6:50YEN 新宿 8:20 21.6km 1019 12:05 1015 10:20 10:20
 12:05 12:30 12:50
 2150YEN 河原大橋決出谷 北沢峠 1750YEN

長待小屋 (泊2食 6500YEN) (2444.屋敷)

8/12(土) 4:40 4:50 4:50 5:50 7:35 8:35
 10:20 10:15 (2752M) 2740M 11:45 (2966M)
 12:00 12:00 (2660M) 長待花

8/13(日) 3:20 7:00 7:10 8:50 9:00
 12:09 13% 13:00
 2000YEN 甲府 赤倉温泉 新宿 相模原

熱い餅(1000YEN)
 小1枚 42 屋敷

北沢峠の登山歴に較べると、私の南アルプスの登山は
 極端に少ない。鳳凰三山と、白峰三山の2回(か
 ない。そのうちの1回は20歳代であり、以降無い。

今年私も50歳になってしまい、白山に登るが
 迷っている時、急に南アルプスに登りたくなった。

当初計画していた夜行列車の行程と朝一番の
 特急列車に、変更した。実は、当初計画のと
 初日の午後3時半頃 山小屋(6合目小屋)に
 つく強行軍が予想され、無理をしないようにした。

天気は、7月23日から連日真夏日が続いて
 おり、山行も、最終日霧模様以外、恵まれた。

山登りというのは、さわめて野蛮な、間の抜けたスゴ
 ークなもので、これをスマートにやろうとするととたかく
 間違いが起るのである。 — 松方三郎

自然環境破壊が心配されて作られた
スパ-林道と、村営リムジnbバスに揺られて
2030M 標高の北沢峠に到着した。

山小屋は、予約不要という頭があったが、
現在は、通用しないようで、シーズン中や
人気ある山では、簡単に2食付にはあり
つけないのである。

北沢峠長衛小屋の親爺さんにたのみこみ
何とか、1泊2食プラス翌日の昼食分を確保
して、眠りについた。

翌朝 誰よりも早く3時に起床(3時40分)
出発、ハコダテのあたりを2時は仙丈岳の
向かい。途中の仙丈小屋に泊る人達は、
後で仙丈小屋に泊る当日1泊は3人寝させ
られ程混んでいて、3時半に皆去った。

そうである。

早朝の元気をフルに利用して、急登をこなし
漸やく御来光と対峙する仙丈岳に着いた。
遠くに、黒い地蔵岳のオベリスクが眺め、
多少の雲海が、太陽の素晴らしさを、没入して
いる。登ってきた方を振り返れば、
月が浮かび、明日登る仙丈岳がそびえている。

再び樹林帯の急登を、息苦しく、あざとがり
耐え、ハイマツ帯にたどりつく。摩利支天の白さが
眼に焼きつく。また登山道のハイマツの間に、
シロツグの白い花が、若さをやわらけように
咲いている。駒津峰に登りついたら、
甲斐駒の巨大な胸にとりつき、花崗岩の
白砂を踏みぬき、駒ヶ岳への最後の
急登にとり

はくちの山から持ち帰るものは、その場限りで消えてゆく印象ではなく、生涯にわたって色あせぬ思い出である。 —オドリ・レイ

深田久弥は、日本百名山の中を、さらに日本の
十名山と選べといわれ、この甲斐駒ヶ岳を
落さぬと誓っている。
花崗岩の白砂を敷きつめた頂上の美しさを
推している。確かに鳳凰山の登山道の
白さを想い出しながら、富士山の黒さを逆にお
お返ししてしまった。

甲斐駒ヶ岳と讃えられた古の漢詩、僧海雲の
「駒ヶ岳ヲ望ム」を掲げる。

甲峽=連綿ト丘壑重ナル
雲間独り秀テ鉄驪ノ峰
五月雪消エテ絶頂ヲ窺ハバ
青天ニ削出ス碧芙蓉

山頂にて、仙丈岳、遠くは中央アルプスの峰々を
眺めて、スケッチブックに水彩画を描いた。

駒ヶ岳から駒津峰へ直降下の岩場を
降り緊張しながら下った。結構きついのである。
お、突に多くの中年の女性方のグループが登山
道とゆるやかに交差した。最近では高山植物を
採るのツアーと相おそうであり、私も撃つて
はた。

お昼頃 2日の宿の長衛兼に着いた。
長谷村の村営山小屋に到着。前日予約した
馬の背ヒョウの乗泊を解約して、2人小屋に
泊ることにした。手紙に書いている若者とかなり
話した。お、お。

翌日は、やはり3時に起き、仙丈岳を、空身で
ヒョウに登山した。数多くの高山植物と
出逢った。雷急にもめぐりあはれ、カマツの石山
が既になし、私の脳に焼き付けた。

ただ道むのたノ一人が活弁すれば、他の一人がそれには代るのだ。 —ヘルマン・ブール

No.51

- 1995年(平成7年)10月6日(金)~9日(月)
- 戸隠高原 高妻山(戸隠山 No.35), 戸隠八方眺
- ワケノ仲間 (三浦正, 日渡上原と4人で登山)
- 日本百名山 No.35 累計 43番目
- 山日記レ-7. 119 + 3 = 122
- 登山レ-7. 183 + 3 = 186

• 行程



○費用 { カツクン代, 高妻料金, 食費, テント場代 ... 12,000
バス料は 天宮料は
 昼食 850, 夕食 1,350, 電報費 2300
湯ふくみ代 (バス 500)
 小計 1,350, 530, 600, 500 合計 19,500 YEN

50歳の中年になって また登山と楽しむようになってきた。特に今年は、半世紀という区切りなため、結果的には、今回の山行で100回登山。

最近単独行(高)が続いていて、今回は昔のワケノ同期の仲間が集い、07 テント生活と久しぶりに楽しむ。三浦正は都合で不参加になったが、上原の4WDでキャンプ場へ乗り込め、バスキャンプ方式としての山行になった。

高妻山は 日本百名山の一つである一方、戸隠山は、どうもない。高妻山は、結構に盛られている。日本百名山にないのは、静かであるかも知れない。

山の高みでは、ほくたはは何よりもまず、高みです。とてやん。
 —ワケノ・ボナーチ—

高妻山は、上原君のコースの一つとして、このころと相乗を受け、はじめの山の名前を知ったというレベルである自分になさげない。勿論、戸隠という名前は充分知っており、大野温泉、美峯子と飯縄高原、野尻湖等のハイキングに来ている。高妻山は、深田久弥が「あまりその名が知られていないのは、平野から遠く眼につく山に近く、こゝそは入近から、遠く離れなれば容易に見えないものである」と書いている通り、目立たない。名前の由来は何だろうか。

八方眺みから遠望する高妻山は、とっしりとして、何の風格も備わっている感じがある。ついついスケッチしてはみたが、山の姿のバランスもとても美しい。とらねとつくと、女性的な感じであり、そのころの名前のつづきのところかと勝手に考えてしまう。一方、戸隠山は、エッセイの岩壁で構成され、男性的な印象を受ける。

戸隠の岩壁は、久しぶりに緊張感がある。既に山も50歳になり、バランス感覚も、あやしくなる年令に、さ(わ)り、あり、緊張感も、続くとも、心臓に負担も、わ(り)そうである。魚沼三山の比ではない。若い女性も、最近、滑落したから、岩壁に、た(り)つづいた、真新しいヒールから、胸を縛るのつづ。

戸隠神社の奥社に、無事下山すると、参拝客が、大勢押し出されて、早朝の誰一人居ない。参拝客とは、まるで異なる。太陽の照らす明るさと、人々の雑踏と、早朝の静寂と、とか、時間と、へ(り)て、同じ神社とは、否(し)に(し)ない。

(追記) スケッチと前述した、来年の年賀状の版画の題材として用いることとした。結局、6版の多重刷となり、手元としては、初めての大作であった。しかし、出来は、いかに、な(り)たか?

何の拍子にも、顔に汗かき、言葉が、と(り)出す。1度、いい曲をききたいと思つて、レコードをかけるようなら、のかもしれない。
 —望月達夫—

深田久弥の日本百名山の「両神山」には
次のような文章から始まっている。

上野から高山崎まで汽車の窓から多くの山を
見ることが出来る。……私はいつも気をつけて見る
山に、両神山がある。その山は秩父の前山のうしろに
岩稜を岩の若の若のさまで立っている。
両神山は異風である。その山はギザギザした
頂後の一線を引いているが、左右はブツ切れて
いる。

山の名の由来についても触れており、八日見山が
竜神リウカミに、更に両神リウカミとなったと。
そのユウカミは、ヤマガミから来たものか、オカミは
大蛇オウラの意で、仏教の竜リウである。
「竜頭大明神を祭神とする」とこの山の古縁起に
記されている。

確かに日向大谷から歩きはじめると、随所に
碑や石像が目にとまる。……竜子という名は

何と云うかと考へながら歩いた。
荷物もテントも持っていないので6kgと軽く、大して苦勞せず
清滝小屋へ着いた。この小屋は、最近増設されたか、
赤い屋根のログハウスで目につく。
小屋の中は、ランパでの生活であるが、何の風情が
ないかを感じるのは、何故だろう。
人が多過ぎる為なのか。今日は、ジュンテウの
最中で、200人近くは宿泊するそうよ。

今年は、4/27(土)~30(火)、5/2(木)~6(月)と休みの
続き、今春は寒さが4月中旬まで残り、我が家でも4月に
入ってもストーブを使っていたが、中旬を過ぎると急に暖かくなり、
4/24には全国的に夏あじき暖かになり、28~30℃と上昇。
ジュンテウ前半は暖か、お天気を天気予報は、
仕事関係で4/30(火)は出勤し、5/1(水)は朝3:00に起床し、
5/1の午後は全国的に雨となり、5/3~4はとうとう天気
が、お直すと予報は、お天気を、山登りをすること
は、次である。結果的には、まあまあ天気
悪さ、5/5(日)は、とてつもない雨あんなに降る雨は久しぶりになった。

その春に来るのだけれど、遅い為なのか、
本来ヤシツツジが咲いている時期なのに
未だ咲いていないのか。足元には、ニリンソウが
可憐な白い花を咲かせて、楽しんでくみた。
初日の夜は、偶然、清滝小屋に、音楽のグループ
が、フエニソウとあり、お天気を、お天気を、お天気を、
方を、お天気を、お天気を、お天気を、
応援として、再修大の男子学生の混声合唱、7人7人、
同好会が、ピアノの音楽を奏でてくれた。日本の
雑音とか、お天気を、お天気を、お天気を、
くら。外気温は、12℃前後とあり、小枝の
先端に、小瓶、ちり紙、灯油での篝火に、囲まれ、
50~60人が、お天気を、お天気を、お天気を、
楽しんでくれた。

小屋の中は、1階と2階を、合わせて、200人前後
が、お天気を、お天気を、お天気を、
20時頃就寝し、23時、1時、3時、4時と途中
何度も目をこめ、腰は痛く、今後は、テント生活

の、お天気を、お天気を、お天気を、
翌日の本番の両神山登山は、空気に、お天気を、
あって、お天気を、お天気を、お天気を、
下りた。山行中、ホトギスの鳥さきか、何度か
耳にしたが、お天気を、お天気を、お天気を、
また、お天気を、お天気を、お天気を、
期待して、お天気を、お天気を、お天気を、
会うも、お天気を、お天気を、お天気を、
山頂に着くと、お天気を、お天気を、お天気を、
なるが、お天気を、お天気を、お天気を、

快晴には、お天気を、お天気を、お天気を、
八ヶ岳方面に向って、お天気を、お天気を、
茶色は、お天気を、お天気を、お天気を、
かなり、お天気を、お天気を、お天気を、
あるようだ。富山は、お天気を、お天気を、
やけに、お天気を、お天気を、お天気を、
お天気を、お天気を、お天気を、
お天気を、お天気を、お天気を、

山男の沈黙は、謙遜さよりもむしろ素直心からくるものだ。
— モンセル

今回の山行は、学生時代の元気な時でも
敬遠した南アルプスの南部 奥深い
荒川三山、赤石である。

然し、交通手段や山小屋の整備で
中年になった私でも、十分に楽しめるよう
になったのである。

先の樽船岳登山で同行した同期の
下家君も声を掛けられ、是非ともとい
うので、2人での登山となった。彼は
ここ3年、中年の心くるいながら、毎週
登山をしている男である。

さて、登山計画書も私が先づ作り、
下家君は更にワッポ紙に送ってきた。
登山口で早速届けられたのである。

今回の私の登山目的は

- (1) 新調したカメラで高山植物を写す
 - (2) 最近続けている水彩画をかき
- であるが、それらは自分の机の上に
置いて本人だけが後日楽しむもので
世の地の多くの人々の眼に映ることは
ない。ある意味ではおもしろいものである。

高低差 2000米は富士山の3000米に
次ぐもので、久しぶりには、アルピニズムの
大きい部類である。
素性の発達により、登山用具も大部軽く
なり、出掛ける前に計量したら10kgと
あった。以前は20kgを超えていた
あろう。

踏のない高さに向って踏みだしていく登山者の後顧の
背中には視座のザックがあり、それには健康が詰ま
っている。

— 辻 —

3泊4日の行程で、登山基地の樫島が
2泊とあってよかった。

当初の登山計画書では、

初日 樫島小屋

2日目 千枚小屋

3日目 赤石小屋

4日目 樫島経由

であったが、予想以上に川原調であったので
2日目は千枚と赤石の中間に、荒川小屋
まで足を伸ばし、3日目は余裕とあって
下山して、出発地の樫島に宿泊
したのである。何となく水洗面所や
お風呂が備わっているという、しみじみ
つつい慰められていた。

静岡から樫島(標高1072米)まで

バスで4時間半をとり、40分の徒歩を
要する奥深いところなのである。

このように長距離は、日本では
やはり南アルプス南部が、タネツツである。
よくも前衛の峰々の連続が、
感心した。昔の登山者は、重荷を
背負って、大井川の源流を長い時間
を掛けて歩きつづけたのであろう。
想像を絶するものである。

私達は事前に“山と溪谷”96.8月号の
特集“中高年登山者のための夏山企画山行”
“kak”をお互いに良く読み、理解し、実際に
応用した。結果的には、元気に登り、元気に
下山できたのではなうだろうか?
下家君も文句なく喜んでくれたのは
なうだろうか。

標高も知れぬ西部ヒマラヤの全域が見られたので、わ
たしは目の前で地球が回転するのを見るような気がし
た。

— T. ロングスタッフ —

初日は12時間、2日目は10時間半歩き
休む暇が、極端にはバテなかつたのは
よいだろう。

- (1) 不完全燃焼(酸素不足による疲労)
- (2) カスタ(エネルギー不足による疲労)
- (3) オートヒート(水分不足による疲労)
- (4) エンゾウ損傷(筋肉の細胞が壊れて...)

以上の4分類の内容と実感をもって
理解し、対応した結果であろう。
従って日頃の体力作り(走る維持)と
荷物の軽量化は大いに役立つだろう。

台風12号の暴走の上下山後九州、山日
能登東北と縦断したものであるが、
その影響というは、前振りで、普通なら
午前11時頃よりガスが上り始めるのに
対し、今回は9時頃と早かった。

その為、2日目の荒川小屋〜赤石岳の間は、
素晴らしい眺めに恵まれたが、下山以降は
ガスで眺めは今一つであった。

目的の高山植物写真撮影は接写45cm
のカメラであったが、結果を見ると今一つ
満足できぬものであった。

たゞ今回、雷鳥の親子に2度遭遇し
シャッターチャンスに恵まれたのは収穫で
ある。もっとズームアップできればよいのだが、

もう一つの目的、水彩画であるが、どうも
才能が乏しいのではと疑いが出て
きている。図々しく頂上で描いたのは、
作品の気に入らぬというは、満足できぬ。
はたかとも。

なんと、世の中には書籍から学んで、自然から学ばさ
る人の多いことか。 — 小島鳥水

No.56

- 1996年(平成8年) 10月10日(木)〜12日(土)
- 鳥甲山(2037.5M) & 苗場山(2145M) 49番目
- 秋の秋山郷 高田宏 本に会うで紹介
- Xバー 上原、三浦現、日渡、鈴木

山日記ページ 109番目
登山ページ 200番目

行程

10/10 横浜から上原、三浦、日渡。5:30〜11:30
柏(鈴木) 6:30 <肉越道> 秋山郷
上野原温泉のよきの里 大十郎、沼田

10/11 晴 10°C
車 登山口 6:30 8:40 赤富肩 10:05 鳥甲山 11:05
— 13:20 登山口 —

10/12 風強(夜中) 日渡
車 3合目(1290M) 6:35 — 5合目(1580M) 7:30
— 7合目(1810M) 8:10 — 2000M 8:45
— 苗場山(2145M) 9:15 10:15 3合目 12:10
13:30 雑居IC 18:05 柏 19:30 浪 22:30

No.57

- 1997年(平成9年) 5月1日(木)〜2日(金) 51次
- 御蔵山(3036M) (昨前山 No.60 50番目)
- 残雪多い春山 単独登山(17hr) 休養

山日記ページ 140番目
登山ページ 201番目

行程

5/1 〇 柏の自宅 7:30 10:00 12:00 12:10 12:15 12:20
新宿 上諏訪 塩尻
木曾福島 14:11 15:00 15:10
田原 15:20 16:00 17:20 17:50
木曾福島 19:15 19:50
◆ 夕飯、夕飯、沖湯、星空眺め、靴、靴ひき、靴
防水2°C、防水-2°C

5/2 〇 4:00 起床 6:00 発 2:50 王滝陣越 10:00 10:20 11:20
御蔵山頂 8:30 8:50 9:50 10:00 10:20 11:20
田原 11:30 11:40 12:20 12:50
王滝駅 13:40 14:33 15:04 15:28 18:04
木曾福島 19:15 19:50
柏の自宅 542665

山登には無理はなか
平直な、そして恐ろし
供してくれた。
JR 7000往 + 1,980往 = ¥15,220
(97% - 2830(往) + 171,060(復))
J-F5(往復) 1,080 = ¥11,990
1000円 + 1000円 + 500円茶 650
+ 100円 240 = ¥2,730
油断(食平etc) 平直文書 ¥3,000
合計 ¥32,940

- 4/27(日)~5/6(火)の10日間 リフレッシュ休暇の履行により、今回ゴールデン飛石連休の合間のWEEK DAYの5/1(木)~5/2(金) 快晴であつた。
- 電車は指定席をとらぶ。ゆくりと旅が出来た。たゞ シーズンでないのに震るバスの運行がたいやが玉に傷。
- ①のタクシー運転手による王滝村、木曾の話し
②の貸スキー店主の厚意による王滝村まで12km位乗せてくれた際のいろいろな話し
ゴキウが片道券であり片道往復乗せられたこと
色々とスキーというが親切、暖かみを受け
山行であつた。
- 4本爪の簡易アイゼンとストックステップという1~2Mの積雪にはアイスクラウチと倍好か
み意味は無奈まといふであつた。

- 偶然 快晴に恵れ -2°C位で滑りだが、
と。氷雨が降っていきなうとやぶらばらうが。
也。150)。ピッケル、サングラス、陽焼け防止のクリーム、
耐水登山靴、サングラス、陽焼け防止のクリーム、
IPマツトが是非とも必要であつた。反省。
- 実は前日に漸く御嶽山に登ると決めた
あつた。はたか(に限)である。
本日は残雪も多うた。大山でもとんとん
地田ともみだりあつた。諸費は
高うた。もう一つの理由が、
次に白山を考へたが、雪が深いと懸念
してあつた。
昨年7月5日~7日に木曾駒ヶ岳に登り、
その時ですら、大部雪渓が残つていた。
と考へると結構大胆なことを考へた。
ある。日本名山50番目の記念登山に免じて
もういふ。
あの雪はつかいの帽子のようなマツターホルンに単独
は実に恐ろしい経験だった。一騎村直己

- 今日 アテックス製のテント(2人用)を初めて
使った。7合目の地面は凍つたので
背中、腰が寒。持ちし衣服を全て凍つた
冷た。夜中に何回も起きてしまった。
IPマツトが必需品であること痛感。
- 満天の星空、1昨年11月に登った時の
雲取山の星空も素晴らしかつた。とほりも
更に2倍、3倍の素晴らしさであつた。
お山の真暗さ。誰も居ないという状況が
海へと盛り上げられた。
流星!! 宇宙の神秘さ!!
昔の羊飼は、色々考へさせられた。
昔の羊飼は、色々考へさせられた。
- シーズンオフというには、登りは、私も含め
10人以下であつた。翌日下山時にも9人が
登ってきた挨拶を交わした。たけである。

- 王滝山に登る時は、雪渓、雪中の
紫外線の強さには、あつた。
途中、人ともみれぬが、足跡も少なく
上へ登る。果しとどうなるか正通して
不安であつた。何れも引き返せる
気持からなつた。
- 稜線に出たら、今度は強風にあふら
主系の下着。とアテックスの雨具(防風)を
100%。とほりも下山に会った頂上の
川屋の番人によると、大した風ではなかつた。
登山計画書では縦走は、湯河温泉の途中
予定であつた。足跡も1分ばかり、直ぐに
諦め、安全な、登山路を戻るとした。
- 御嶽山山頂の中央の穴、北側の穴の
遠眺は、ひと言では云へない。素晴らしい
風景である。冬は楽だといふ(味あつた)

感じである。涼々とし、おりに人が居なく
孤独であると共に、風強く、ある種の恐怖
が共存し、無限と思わぬ透明さ、
自然の造形、美しさ、素晴らしき
多くの表現力をも合わせたい。この
なごけなきと露見(2) (あ、た、い)。

• 折角水彩画の道具一式を持参した
強風(=無理)。25枚のフィルムにとどめ
T-11。私の脳裡に焼きつけたものが
恐らく一番素晴らしいもの。

• 早く今年7月には52Xに
約16kgの荷物を背負、20の単独登山(行)を
11ヶ月にわたるに及ぶか？
50肩(左)と右の背負いから直、たよるが、
張、張、いけるぞ。楽しんで。健康に
感謝する。途中の明神様に祈り(礼)する。

• 帰路の車窓から南アルプスの甲斐駒ヶ岳が
真白、鳳凰三山はまぼろし模様、栗野を過ぎれば
左側は、沢に雪が残る八ヶ岳など。

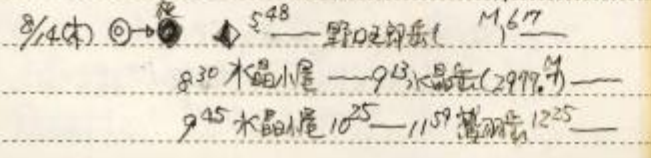
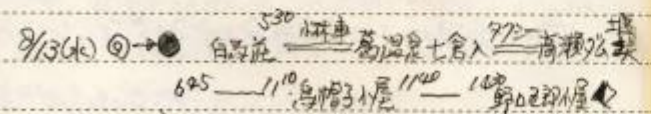
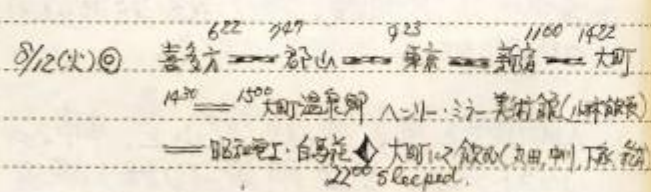
英文のVTRの世界を、P109~P120
ARISTOTLEの"THE FORM OF A THING IS
ITS SPECIFIC CHARACTERISTICS"
"THE FINAL CAUSE", "LOGIC", "NATURE'S
SCALE", "ETHICS", "POLITICS", "DIETARY
ON WOMEN"と読んでみた。

NATUREを愛し、楽しんで"登山と、車中での
アリストテレスの哲学解説物語"を読み
何という、マツシキ組み合わせたいではないだろうか。
1975.3.2000記

ひとふんばりに3時間近くもかけてようやく頂上。三
角点のやぐらがまだ残っていて、その下に無傷の一等
三角点の標石が私のくものを持っていた。
—今西純司

No.58

- 1997年(平成9年) 8月12日(火)~16日(土) 52X
- 北アルプス裏銀座縦走(日本百名山 No.51~52)
鳥帽岳、野山御岳、水晶岳(黒岳)、鷲羽岳、
三後連華岳、双六岳、3折岳
- 山日記7-7 147番目
登山7-7 208番目
- X-11- 下段、針木



以下の文は、この日記の約1年後の'98.7.21(朝)に記している。

久しぶりに縦走をこなすという感がある。昔は大町に位人にて身近な場所。このように雪の上のような素晴らしきところに出掛けたらいいのだからと残念なことにしりである。

今登山は現在、大町温泉御にてハニリーミー美術館長とこの小笠原さんに非常にの確定について十分な考慮をいつでもおこななければならぬものは病人だろう。 —止—

日本の山と三百名山

●印は日本山岳会選定の「日本三百名山」

山名	標高	地図名	行政区画	(学術支天)
富士山(朝ヶ峰)	3775.6	富士山	静岡県・山梨	2880 乗鞍岳 斑草・長野
白山	3056.4	富士山	静岡県・山梨	●乗鞍岳 2978.3 赤石岳 静岡 岡
白根山(北岳)	3192.4	市野瀬山	山梨	●黒岳(本岳岳) 2977.7 檜ヶ岳 富山 山
黒越岳	3190	上高地	岐阜・長野	大 伏 岳 2975 市野瀬 長野・山梨
関ヶ岳	3189.3	大阿原	静岡県・山梨	●駒ヶ岳(早雲) 2965.0 市野瀬 長野・山梨
雄ヶ岳	3180.0	檜ヶ岳	岐阜・長野	摩利支天山 2959.2 御岳山 岐阜 幸
箕川岳	3141	赤石岳	静岡 岡	●駒ヶ岳(水登) 2956.3 赤穂 長野 野
赤石岳	3120.1	赤石岳	静岡県・長野	●鷲ヶ岳 2942.2 檜ヶ岳 富山 長野
大喰岳	3120	上高地	岐阜・長野	●白馬岳 2930.0 白馬岳 富山・長野
北郷岳	3106	上高地	岐阜・長野	(朝ヶ峰)(宝剣岳) 2931 赤穂 長野
瀬川岳	3103.1	上高地	岐阜・長野	(木曾駒ヶ岳) 2931 赤穂 長野
市野瀬岳	3090.2	上高地	長野 野	●栗ヶ岳 2926.0 檜ヶ岳 富山 山
中 岳	3084	上高地	岐阜・長野	●野口五郎岳 2924.1 檜ヶ岳 富山 長野
中岳(西阿原内岳)	3083.2	赤石岳	静岡 岡	●大天岳 2922.1 檜ヶ岳 長野 野
御岳山(朝ヶ峰)	3063.4	御岳山	岐阜・長野	(明神岳) 2920 上高地 長野 野
御岳(北岳)	3060	赤石岳	静岡 岡	(北 岳 岳) 2920 大阿原 静岡 岡
中 岳	3055	大阿原	静岡県・山梨	西 郷 岳 2908.6 上高地 岐阜・長野
西 岳	3050	大阿原	静岡県・山梨	●檜ヶ岳(白馬岳) 2903.1 白馬岳 富山・長野
坂 岳	3046.9	大阿原	静岡県・長野	●八ヶ岳(赤岳) 2899.2 八ヶ岳 長野 山梨
始末ヶ岳	3031.7	市野瀬	長野・山梨	●笠ヶ岳 2897.5 上高地 岐阜 山
南 岳	3032.7	上高地	岐阜・長野	●広内川岳 2895 大阿原 山梨・静岡
小笠原(赤岳)	3030	赤石岳	静岡県・長野	●奥島嶺ヶ岳 2889.7 立山 富山 長野
乗鞍岳(朝ヶ峰)	3026.3	乗鞍岳	岐阜・長野	●立山(立山) 2885 立山 富山 山
●奥 岳	3023.9	大阿原	静岡県・山梨	前 岳 2883.4 赤穂 長野 野
●立山(大池山)	3015	立山	富山 山	王 嶽 岳 2879.8 赤石岳 静岡 岡
●聖岳(前聖岳)	3011	赤石岳	静岡県・山梨	龍王岳(立山) 2872 立山 富山 山
富士新立	3000	立山	富山 山	●御 岳 2867 御岳山 岐阜・長野
三 峰 岳	2999	大阿原	長野・山梨	●福 岳 2864.7 大阿原 静岡 岡
●駒 岳	2998	立山	富山 山	●赤 牛 岳 2864.2 檜ヶ岳 富山 山
●御 山	2992.0	立山	富山 山	●笠 木 岳 2864.2 赤穂 長野 野
				(真 砂 岳) 2862 檜ヶ岳 富山 長野
				双 六 岳 2860.3 檜ヶ岳 長野 岐阜

20/29

20/30

11/31

真 砂 岳 2860	立 山 富 山 山	●北 岳 岳 2860	乗鞍岳 岐阜 幸
(白河内岳)	2860 大阿原 静岡 岡	●乗 鞍 岳	2799.3 赤石岳 静岡 長野
●黒 岳 2860	黒 岳 富 山 山	●アサノ峰	2799.1 市野瀬 山梨
●鎌 子 岳 2858.9	御岳山 岐阜・長野	(朝 岳 岳)	2798.7 立山 富山 長野
●常 念 岳 2857	上高地 長野 野	●藤原岳(針ノ木)	2798.7 立山 富山 長野
●小 仙 丈 岳 2855	市野瀬 長野 山梨	●小 河 内 岳 2784	大阿原 長野 静岡
●三 河 岳 2846.5	赤穂 長野 野	●美 師 ヶ 岳 2780	立山 富山 山梨
●三 ツ 岳 2844.6	檜ヶ岳 富山 長野	●高 嶺 岳 2778.7	立山 富山 山梨
●南 駒 ヶ 岳 2841	赤穂 長野 野	●栗 沢 岳 2776	赤穂 長野 野
●三 俣 蓮 華 岳 2841.2	檜ヶ岳 岐阜 富山 長野	●駒 嶺 南 2776.6	立山 富山 山
(ウツミ岳)	2841 檜ヶ岳 長野 野	●小 蓮 華 山 2769	白馬岳 長野 新潟
●黒 野 五 郎 岳 2839.6	檜ヶ岳 岐阜 山梨	●赤 野 岳 2768.7	檜ヶ岳 長野 野
●黒 原 山(観音岳)	2839.9 立山 山梨	●横 通 岳 2767.0	檜ヶ岳 長野 野
●高 天 丈 岳 2829	乗鞍岳 岐阜 長野	●大 龍 岳 2767.0	大阿原 静岡 山梨
●横 岳(八ヶ岳)	2825 八ヶ岳 長野 山梨	●西 岳 2762.9	檜ヶ岳 長野 野
●相 安 岳 2825	檜ヶ岳 富山 山	●新 沢 岳 2750	檜ヶ岳 岐阜 長野
●平 見 岳 2824.3	乗鞍岳 岐阜 幸	●大 阿 原 岳 2750	立山 富山 長野
●針ノ木岳	2820.6 立山 富山 長野	●東 岳 2750	立山 富山 山
●摩利支天山	2820 立山 富山 山	●四 ツ 岳 2744.6	乗鞍岳 岐阜 幸
(中ノ岳岳)	2820 市野瀬 山梨	●城 裏 岳 2742.1	八ヶ岳 長野 山梨
●大 沢 岳 2819.4	赤石岳 静岡 長野	●小 冠ノ王(朝岳)	2740 立山 富山 山
●富士見岳	2817 乗鞍岳 岐阜 長野	●新 沢 岳 2740	市野瀬 長野 山梨
●五 嶺 岳 2814.1	大阿原 富山 長野	●地 蔵 ヶ 岳 2740	立山 富山 山梨
●流 天 岳 2814	檜ヶ岳 長野 野	(北 岳 岳)	2740 檜ヶ岳 長野 野
●前 刺(朝岳)	2813 立山 富山 山	(小 冠 岳)	2738 赤石岳 静岡 長野
●伏 見 岳 2812.6	上高地 岐阜 幸	●信 濃 岳 2734	赤穂 長野 野
●天 與ノ嶺	2812.0 白馬岳 富山 山	●樽 瀬 山 2730	赤穂 長野 野
●駒 子 岳 2812	白馬岳 富山 長野	(輪 尾 岳)	2727.7 赤穂 長野 野
●阿 波 岳 岳	2807 八ヶ岳 長野 野	●鳥 帽子 岳 2726	大阿原 静岡 長野
●中 岳 丸 山 2806	赤石岳 静岡 長野	●小 大 郎 山 2725	市野瀬 山梨
●上 河 内 岳 2803.0	赤石岳 静岡 長野	(湯 沢 岳)	2724 赤穂 長野 野
●小 河 内 岳 2801.6	大阿原 静岡 長野	●御 石 岳 2721.1	赤穂 長野 野
		(木曾駒ヶ岳)	2717.6 大阿原 静岡 山梨
		●馬 ヶ 岳 2715.8	市野瀬 長野 野

10/33

10/33 40 = 21/129